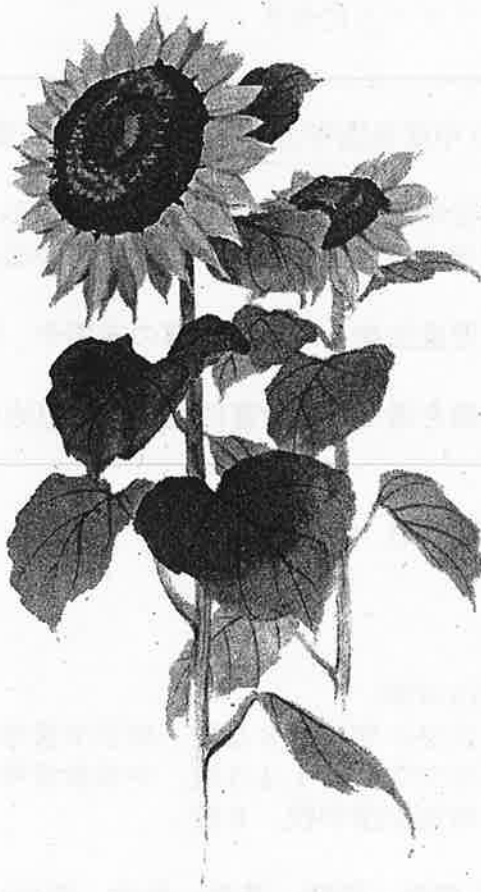


平成30年度

全国学力・学習状況調査結果について



平成30年8月

山口県教育庁義務教育課

## 目 次

### 1 教科に関する結果 P 1

(1) 全体の結果 . . . . . P 1

(2) 各教科の結果 . . . . . P 1

(3) 具体的な問題と解答状況 . . . P 16

### 2 質問紙調査の結果 P 34

(1) 児童生徒質問紙 . . . . . P 34

(2) 学校質問紙 . . . . . P 44

#### 《平成30年度全国学力・学習状況調査の概要》

- 目 的
- ・義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
  - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や、学習状況の改善等に役立てる。
  - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査期日 平成30年4月17日(火)

○調査方式 悉皆調査

○実施学校数・児童生徒数(山口県)

【小学校6年】公立小学校282校、特別支援学校2校 10,912人

【中学校3年】公立中学校145校、中等教育学校1校、  
特別支援学校 6校 10,701人

○調査内容 ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

・問題A:主として「知識」に関する問題

・問題B:主として「活用」に関する問題

※理科は「知識」と「活用」に関する問題を一体的に出題

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)

・学校に対する調査(学校質問紙)

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

1 教科に関する結果

(1) 全体の結果

- 小学校では、全ての区分で全国平均以上である。
- 中学校では、区分によって差はあるものの、概ね全国平均と同程度である。

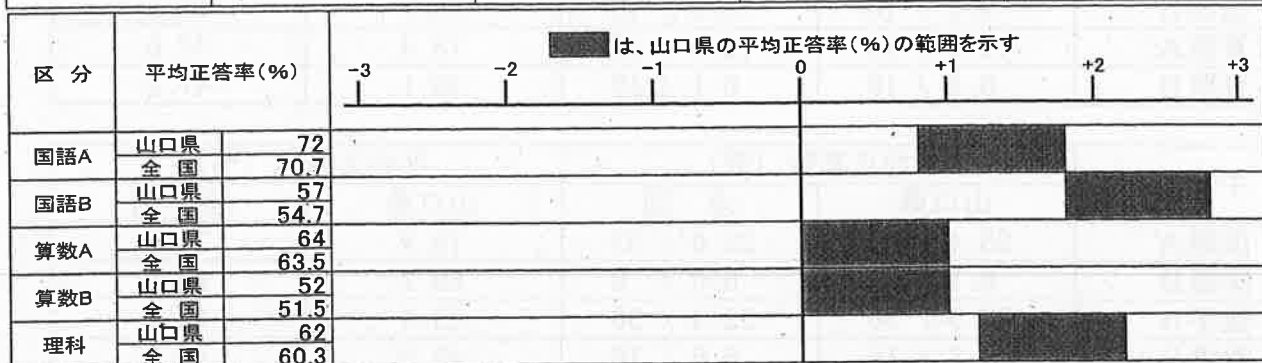
(2) 各教科の結果

①全国の平均正答数、平均正答率との比較

※平成29年度から、都道府県等における各区分の平均正答率は整数値で提供されているため、全国平均との差を範囲で示している。

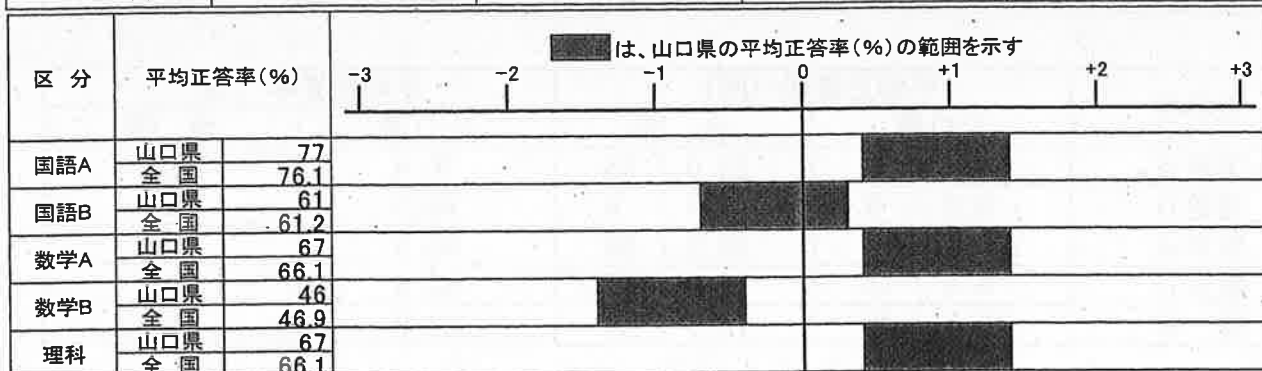
【小学校】

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	8.6/12	8.5/12	72	70.7
国語B	4.6/8	4.4/8	57	54.7
算数A	8.9/14	8.9/14	64	63.5
算数B	5.2/10	5.1/10	52	51.5
理 科	9.9/16	9.6/16	62	60.3



【中学校】

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	24.6/32	24.3/32	77	76.1
国語B	5.5/9	5.5/9	61	61.2
数学A	24.2/36	23.8/36	67	66.1
数学B	6.5/14	6.6/14	46	46.9
理 科	18.0/27	17.9/27	67	66.1



〔参考〕過去の調査での平均正答数と平均正答率

【平成29年度】

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	11.4 / 15	11.2 / 15	76	74.8
国語B	5.2 / 9	5.2 / 9	58	57.5
算数A	11.8 / 15	11.8 / 15	79	78.6
算数B	5.0 / 11	5.1 / 11	45	45.9

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	25.4 / 32	24.8 / 32	79	77.4
国語B	6.6 / 9	6.5 / 9	73	72.2
数学A	23.9 / 36	23.3 / 36	66	64.6
数学B	7.4 / 15	7.2 / 15	49	48.1

【平成28年度】

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	11.2 / 15	10.9 / 15	74.6	72.9
国語B	5.9 / 10	5.8 / 10	58.7	57.8
算数A	12.5 / 16	12.4 / 16	78.4	77.6
算数B	6.3 / 13	6.1 / 13	48.1	47.2

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	25.4 / 33	25.0 / 33	76.9	75.6
国語B	6.1 / 9	6.0 / 9	68.2	66.5
数学A	22.9 / 36	22.4 / 36	63.6	62.2
数学B	6.8 / 15	6.6 / 15	45.0	44.1

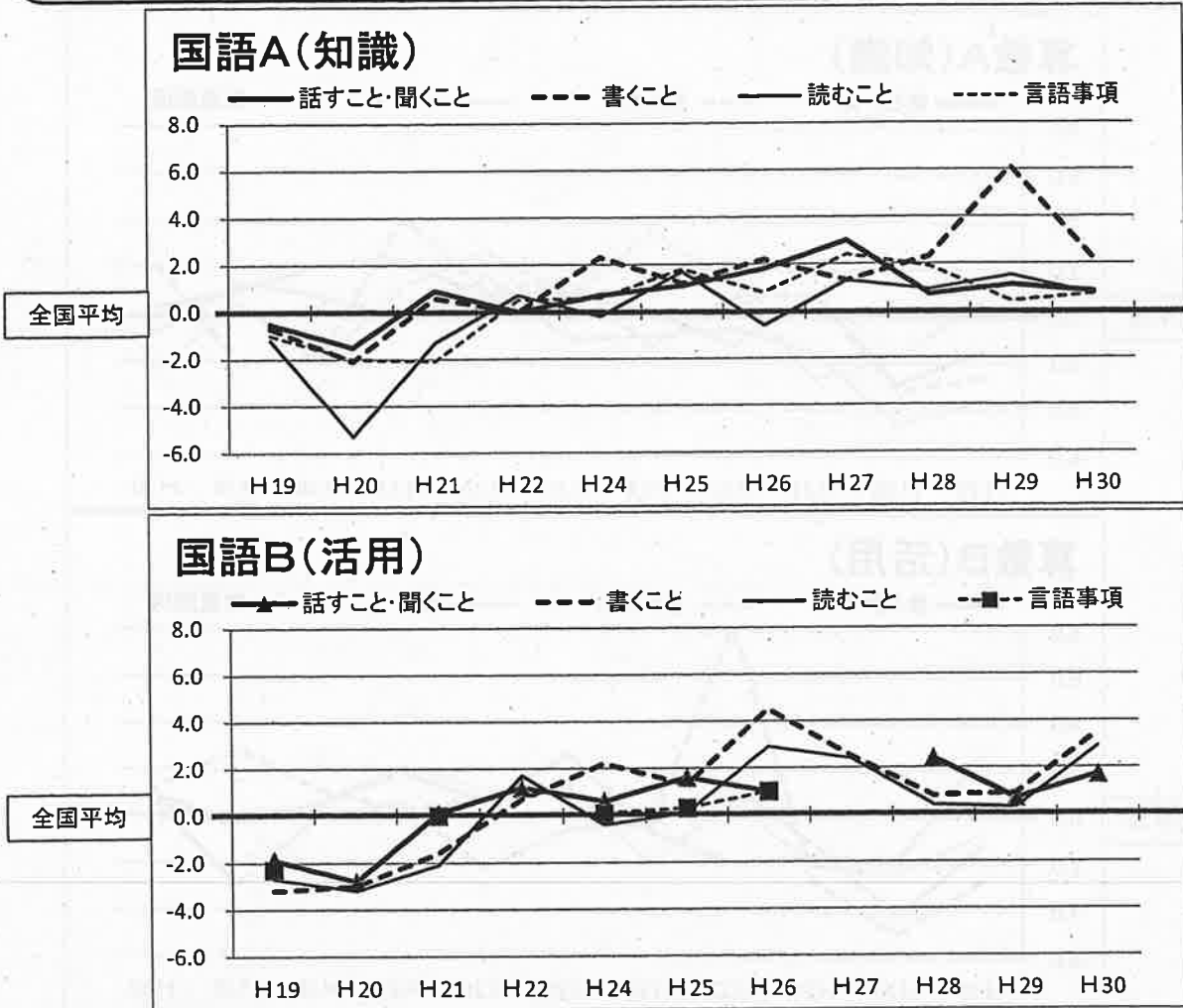
【平成27年度】※平成27年度は理科を実施

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	10.1 / 14	9.8 / 14	72.1	70.0
国語B	6.1 / 9	5.9 / 9	67.5	65.4
算数A	12.3 / 16	12.0 / 16	77.1	75.2
算数B	6.0 / 13	5.9 / 13	46.4	45.0
理 科	15.0 / 24	14.6 / 24	62.7	60.8

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	25.2 / 33	25.0 / 33	76.4	75.8
国語B	6.0 / 9	5.9 / 9	66.3	65.8
数学A	23.5 / 36	23.2 / 36	65.3	64.4
数学B	6.4 / 15	6.2 / 15	42.4	41.6
理 科	13.3 / 25	13.3 / 25	53.0	53.0

②領域別平均正答率の全国との比較【小学校】  
【国語】

国語A・Bともに、全ての領域で全国平均を上回っている。国語Aの「書くこと」では、全国平均との差が小さくなっているが、国語Bの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」には成果が見られる。



【国語A:主として「知識」に関する問題】

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
話すこと・聞くこと	-0.5	-1.5	0.9	0.0	0.7	1.1	1.8	3.0	0.7	1.1	0.8
書くこと	-0.7	-2.1	0.6	0.0	2.3	1.2	2.2	1.3	2.3	6.1	2.2
読むこと	-1.2	-5.3	-1.3	0.7	-0.2	1.7	-0.6	1.3	0.9	1.5	0.7
言語事項	-1.0	-2.0	-2.1	0.5	0.6	1.8	0.8	2.4	1.9	0.4	0.7

【国語B:主として「活用」に関する問題】

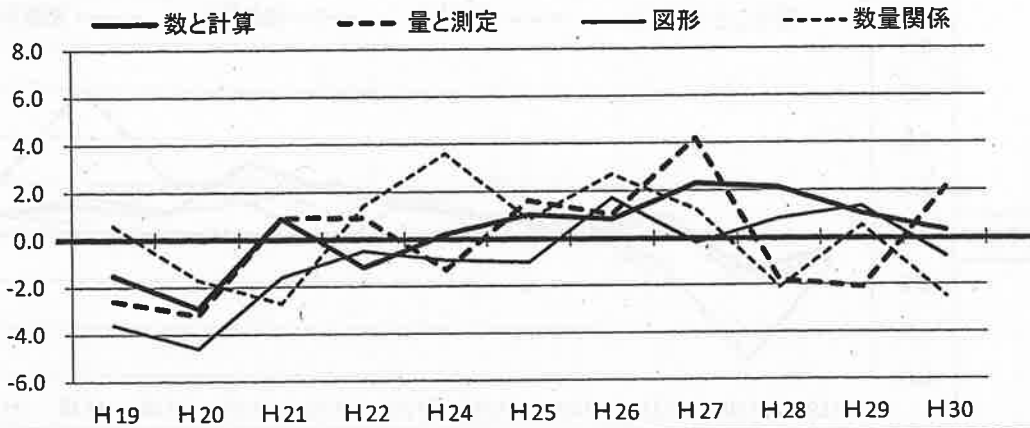
領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
話すこと・聞くこと	-1.9	-2.8	0.1	1.2	0.6	1.6	1.0	/	2.4	0.7	1.7
書くこと	-3.2	-3.0	-1.6	0.7	2.2	1.3	4.5	2.5	0.8	0.9	3.5
読むこと	-2.7	-3.2	-2.1	1.7	-0.4	0.1	2.9	2.4	0.4	0.3	2.9
言語事項	-2.3	/	0.0	/	0.1	0.3	1.0	/	/	/	/

※ 言語事項とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成24年度からは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

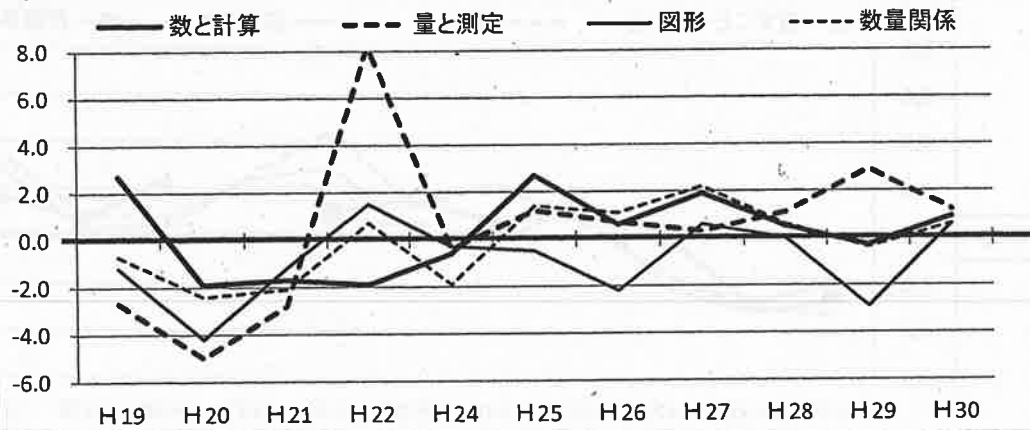
[算数]

算数Aでは、「量と測定」の領域には成果が見られるものの、「図形」「数量関係」の領域は全国平均を下回っている。算数Bでは、全ての領域で全国平均を上回っており、特に、「図形」の領域に成果が見られる。

算数A(知識)



算数B(活用)



[算数A:主として「知識」に関する問題]

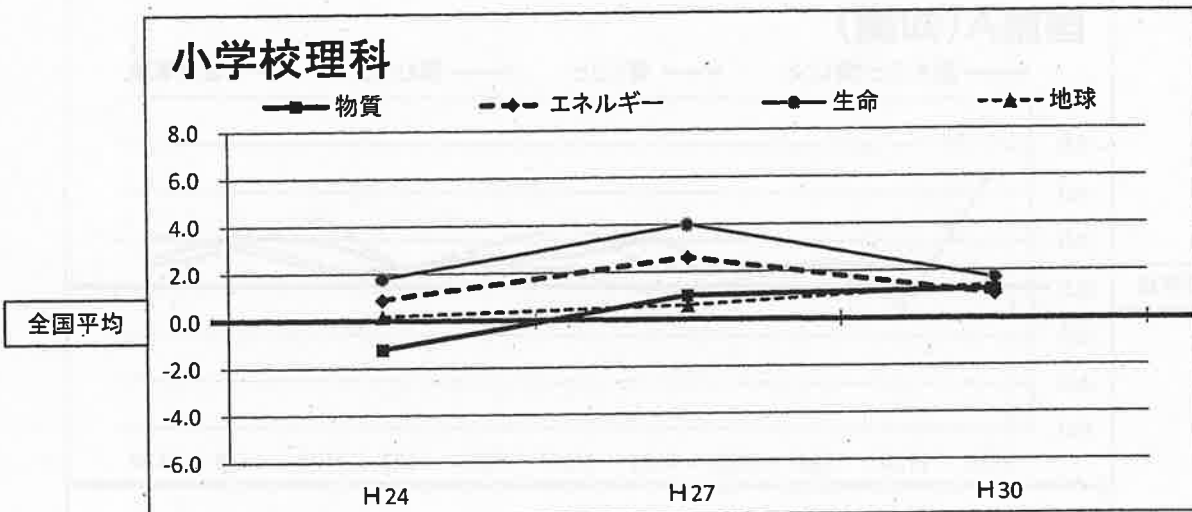
領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
数と計算	-1.5	-2.9	0.9	-1.2	0.2	1.0	0.8	2.3	2.1	1.0	0.3
量と測定	-2.6	-3.2	0.9	0.9	-1.3	1.6	1.0	4.2	-1.8	-2.1	2.1
図形	-3.6	-4.6	-1.6	-0.5	-0.9	-1.0	1.7	-0.2	0.8	1.3	-0.8
数量関係	0.6	-1.7	-2.7	1.4	3.6	0.8	2.7	1.2	-2.1	0.5	-2.5

[算数B:主として「活用」に関する問題]

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
数と計算	2.7	-1.9	-1.7	-1.9	-0.6	2.7	0.6	1.9	0.5	-0.3	0.9
量と測定	-2.7	-5.0	-2.8	8.2	-0.4	1.2	0.7	0.3	1.1	2.9	1.2
図形	-1.2	-4.2	-1.2	1.5	-0.3	-0.5	-2.2	0.6	±0	-2.9	0.6
数量関係	-0.7	-2.4	-2.1	0.7	-1.9	1.4	1.1	2.2	0.6	-0.4	0.6

[理科]

小学校理科では、全ての領域で全国平均を上回っている。「エネルギー」「生命」の領域は全国平均との差が小さくなっているが、「物質」「地球」の領域は全国平均との差が大きくなっている。

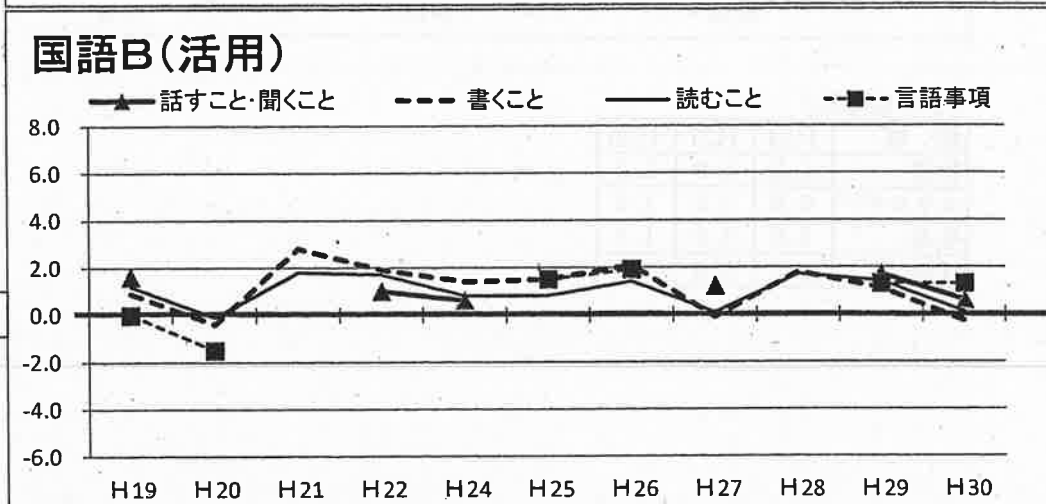
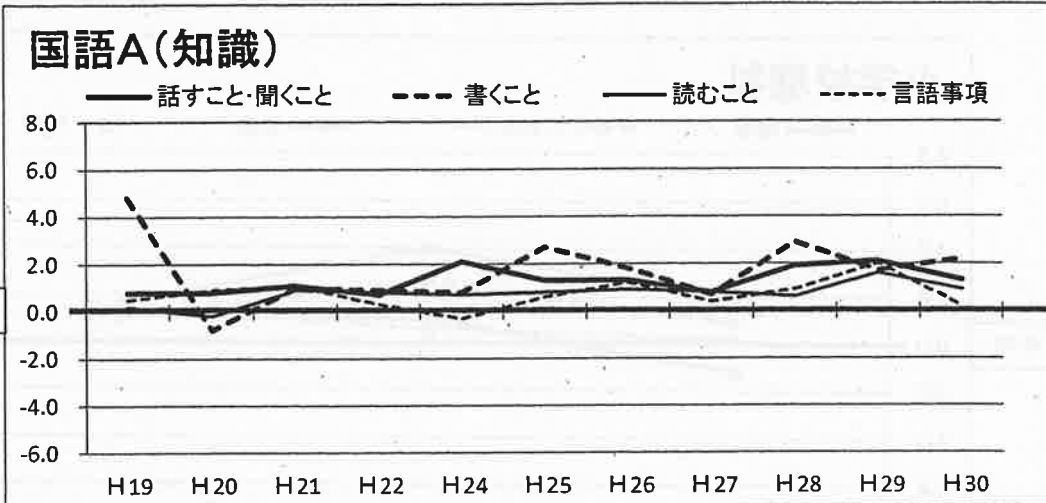


[小学校理科]

領域	H24	H27	H30
物質	-1.2	1.0	1.2
エネルギー	0.9	2.6	1.0
生命	1.8	4.0	1.7
地球	0.2	0.6	1.4

③領域別平均正答率の全国との比較【中学校】  
【国語】

国語Aでは、全ての領域で全国平均を上回っているものの、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」は全国平均との差が小さくなっている。国語Bでは、「書くこと」が全国平均を下回っており、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均との差が小さくなっている。



【国語A:主として「知識」に関する問題】

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
話すこと・聞くこと	0.8	0.8	1.1	0.7	2.1	1.3	1.3	0.8	1.9	2.1	1.3
書くこと	4.8	-0.8	1.0	0.9	0.8	2.7	1.8	0.7	2.9	1.7	2.2
読むこと	0.2	-0.2	0.9	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8	0.6	1.6	0.9
言語事項	0.5	0.9	1.1	0.3	-0.3	0.6	1.2	0.4	0.9	2.0	0.2

【国語B:主として「活用」に関する問題】

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
話すこと・聞くこと	1.6	/	/	1.0	0.6	/	/	1.2	/	1.7	0.6
書くこと	0.9	-0.4	2.8	1.9	1.4	1.5	2.1	-0.1	1.8	1.1	-0.3
読むこと	1.2	-0.1	1.8	1.7	0.8	0.8	1.4	0.1	1.7	1.4	0.1
言語事項	0.0	-1.5	/	/	/	1.5	1.9	/	/	1.3	1.3

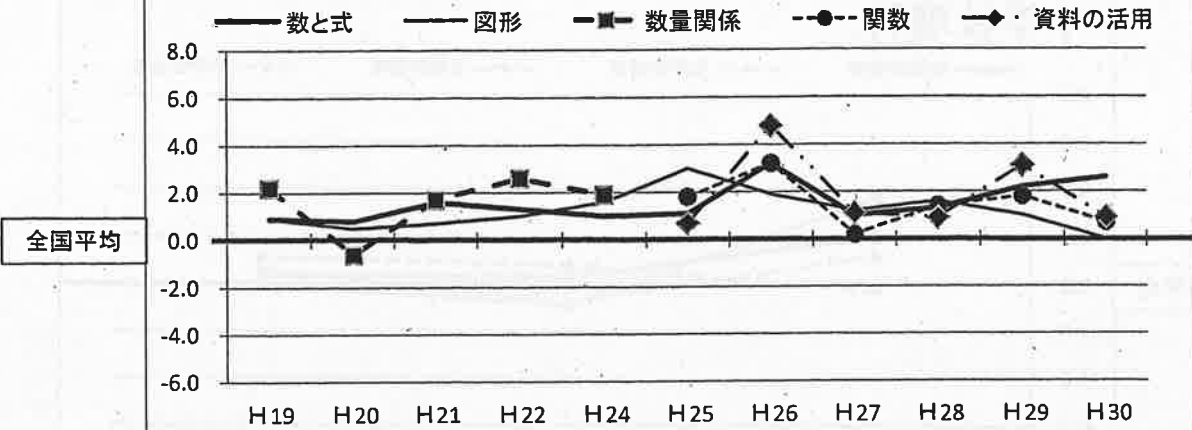
※ 言語事項とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成25年度からは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。



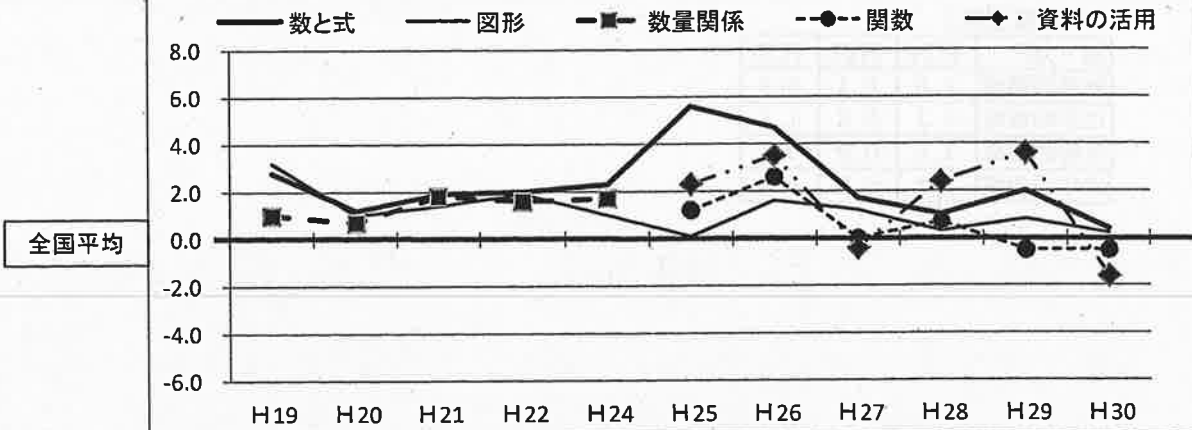
[数学]

数学Aでは、「数と式」の領域には成果が見られるものの、その他の領域は、全国平均との差が小さくなっている。数学Bでは、「関数」「資料の活用」の領域が全国平均を下回っており、特に「資料の活用」の領域では全国との差が大きい。

数学A(知識)



数学B(活用)



[数学A:主として「知識」に関する問題]

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
数と式	0.9	0.8	1.6	1.3	1.0	1.1	3.2	1.0	1.3	2.2	2.6
図形	0.9	0.5	0.7	1.0	1.6	3.0	1.9	1.2	1.6	1.0	0.0
数量関係	2.2	-0.6	1.7	2.6	1.9	1.8	3.2	0.2	1.4	1.8	0.7
						0.7	4.8	1.1	0.9	3.1	0.9

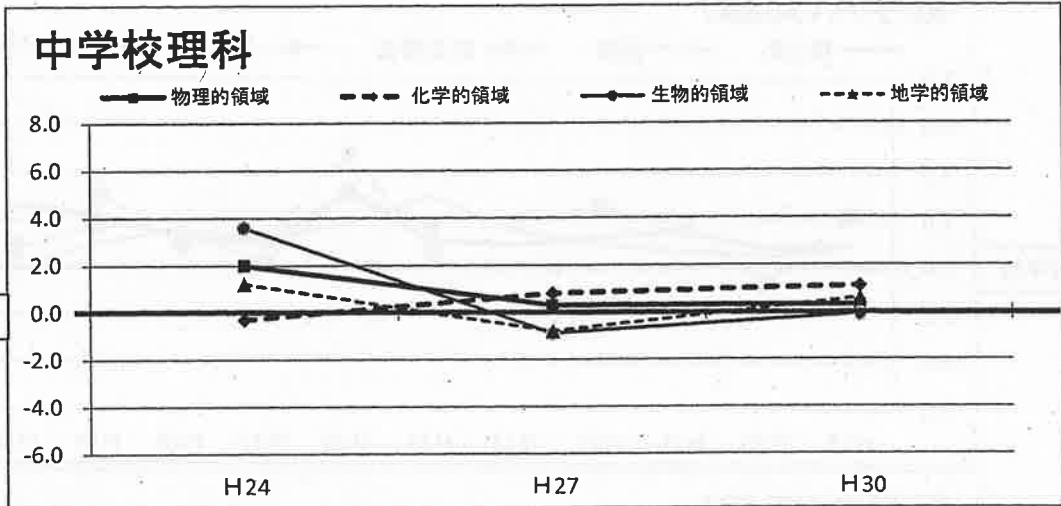
[数学B:主として「活用」に関する問題]

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
数と式	2.8	1.2	1.9	2.0	2.3	5.6	4.7	1.7	1.0	2.0	0.4
図形	3.2	1.0	1.4	1.9	1.0	0.1	1.6	1.2	0.3	0.8	0.2
数量関係	1.0	0.7	1.8	1.6	1.7	1.2	2.6	±0	0.7	-0.5	-0.5
						2.3	3.5	-0.4	2.4	3.6	-1.6

※ 「数量関係」の領域は、平成25年度から「関数」と「資料の活用」の2領域に分けられている。

[理科]

中学校理科では、「生物的領域」で全国平均を下回っているものの、その他の領域は全国平均を上回っており、特に「地学的領域」に成果が見られる。



[中学校理科]

領域	H24	H27	H30
物理的領域	2.0	0.3	0.3
化学的領域	-0.3	0.8	1.1
生物的領域	3.6	-0.9	-0.1
地学的領域	1.2	-0.8	0.6

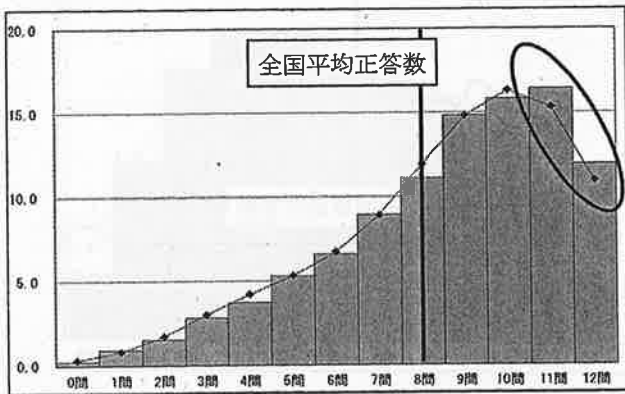
#### ④正答数分布

【小学校 国語】

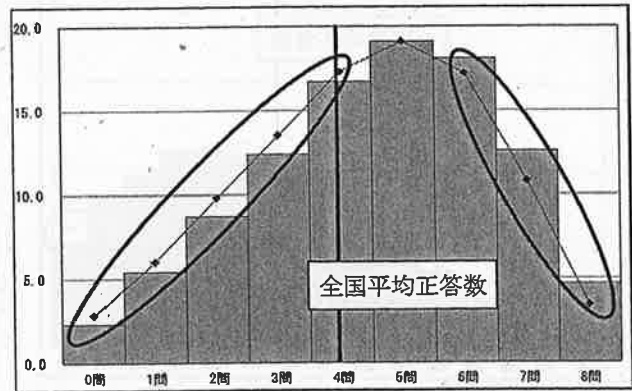
- 国語Aについては、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高い。
- 国語Bについては、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高く、正答数の少ない児童の割合が低い。

平成30年度

〔国語A〕（知識）

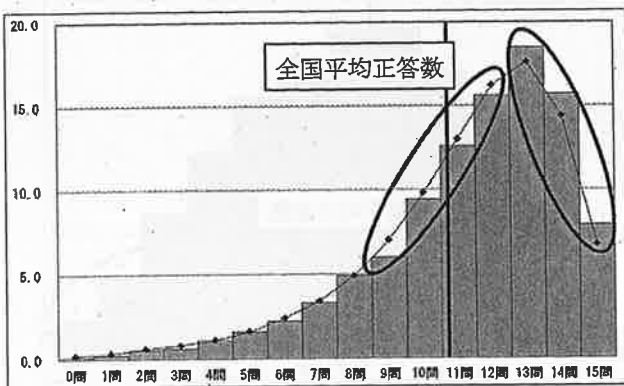


〔国語B〕（活用）

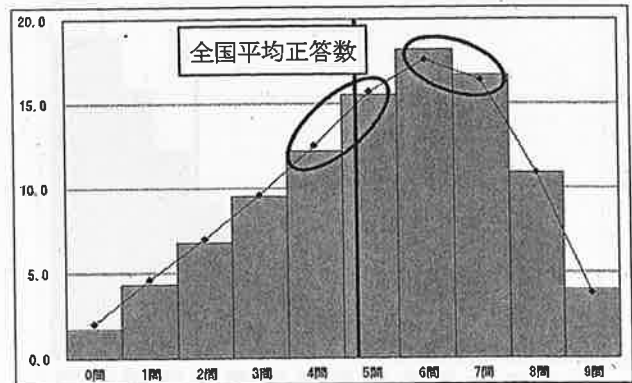


（参考）平成29年度

〔国語A〕（知識）

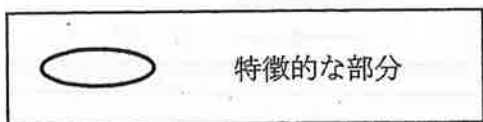


〔国語B〕（活用）



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。

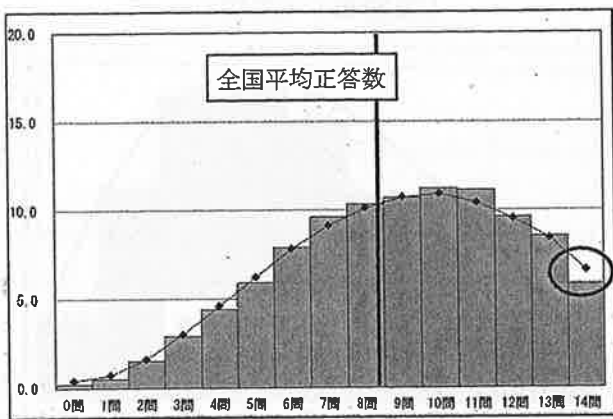


【小学校 算数】

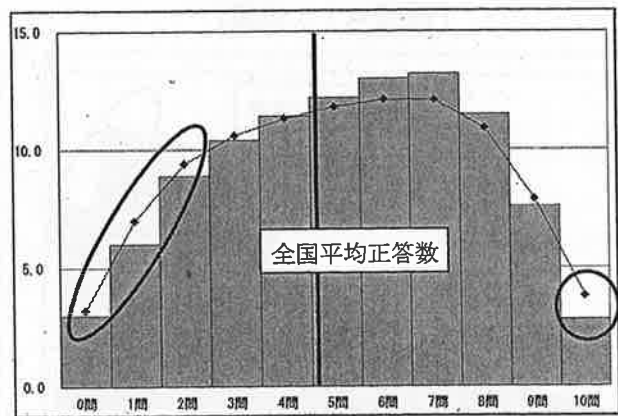
- 算数Aについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ全問正答の児童の割合がやや低い。
- 算数Bについては、全国と比べ正答数の少ない児童の割合が低いものの、全問正答の児童の割合が低い。

平成30年度

【算数A】（知識）

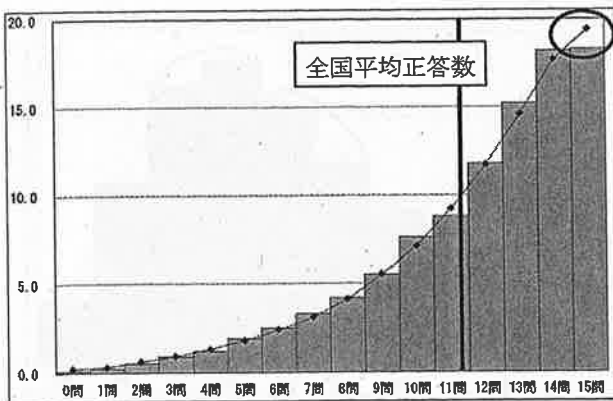


【算数B】（活用）

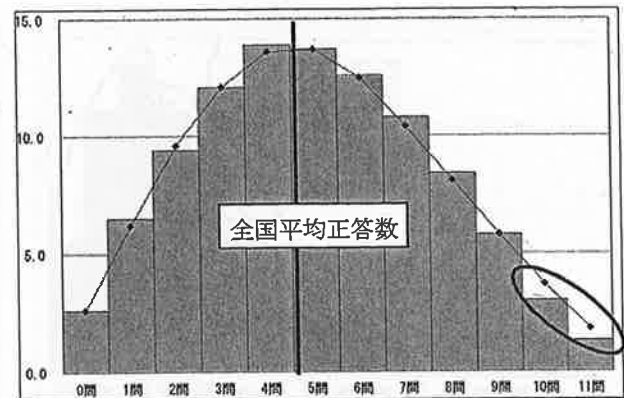


(参考) 平成29年度

【算数A】（知識）





【算数B】（活用）



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。

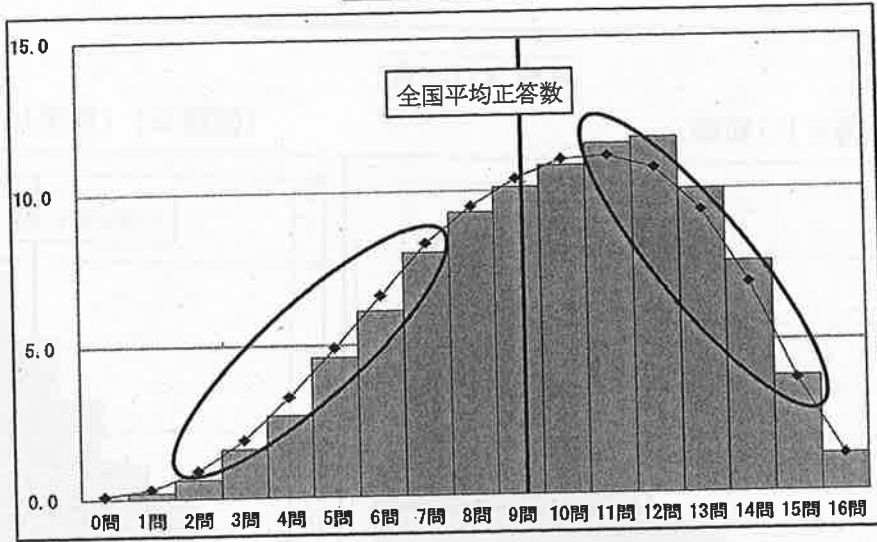
○ 特徴的な部分

凡例  山口県  
 全国

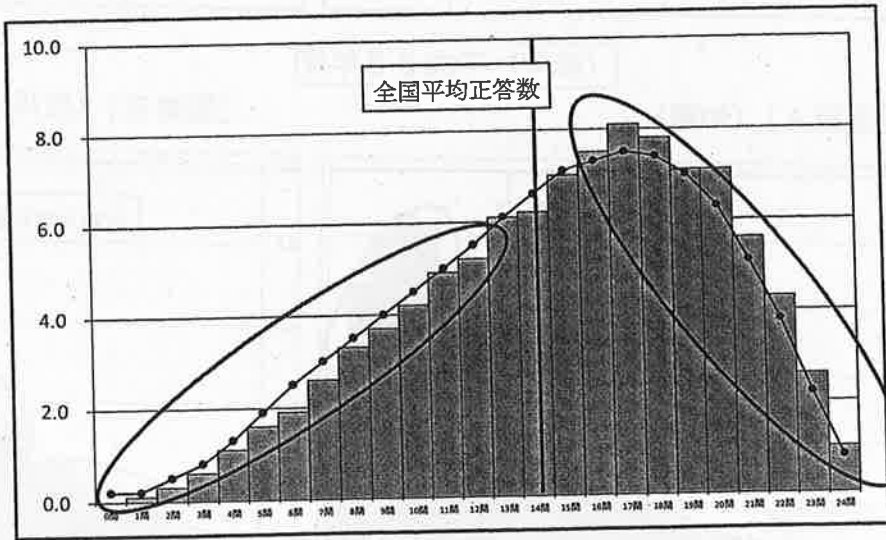
【小学校 理科】

- 全国と比べ正答数の多い児童の割合が高く、正答数の少ない児童の割合が低い。

平成30年度





(参考) 平成27年度



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。

○ 特徴的な部分

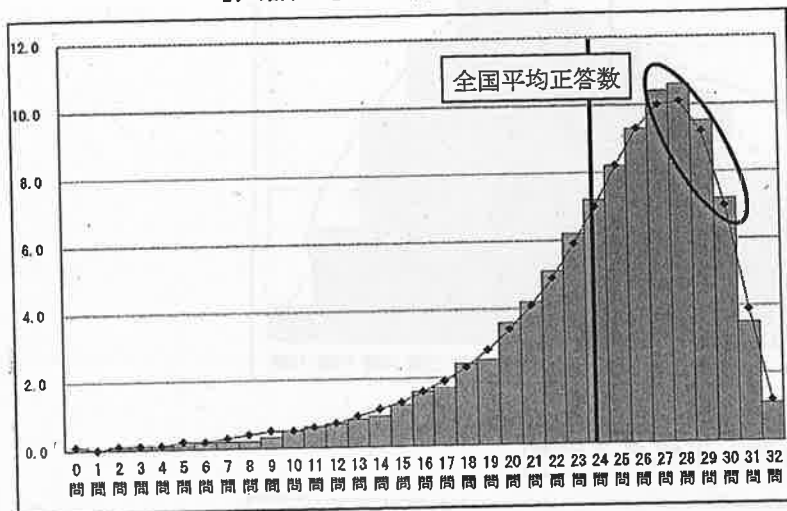
凡例  山口県  
 全国

【中学校 国語】

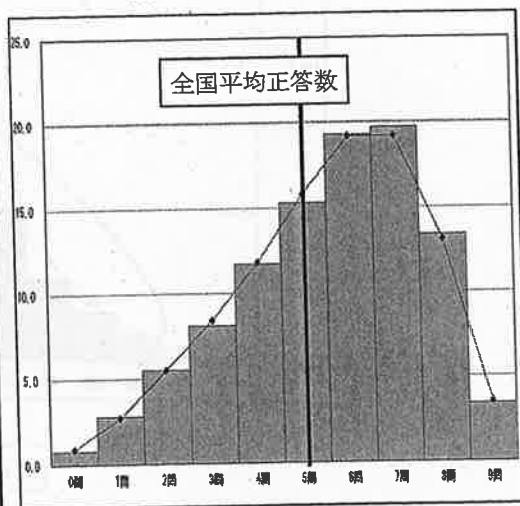
- 国語Aについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあり、全国平均正答数をやや上回る生徒の割合が高い。
- 国語Bについては、ほぼ全国と同様の分布状況にある。

平成30年度

【国語A】（知識）

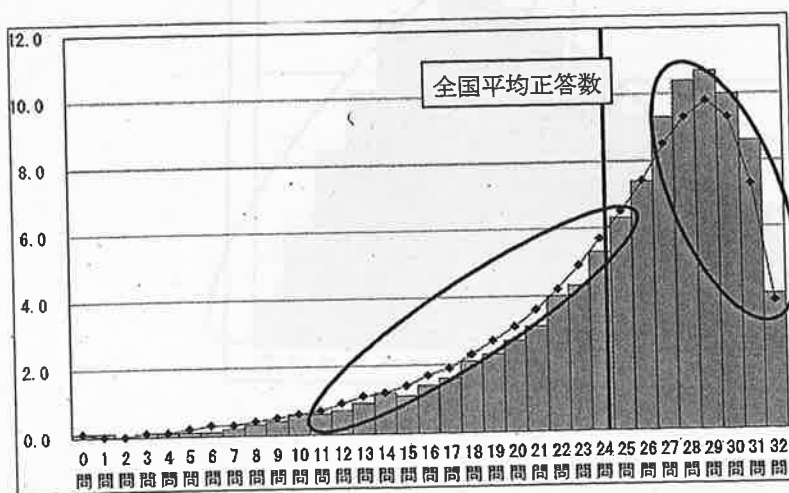


【国語B】（活用）

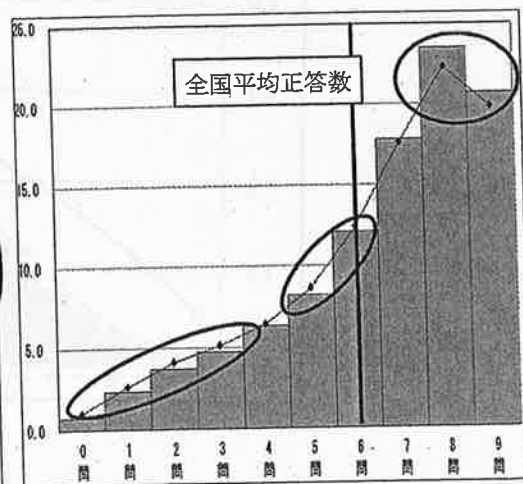


(参考) 平成29年度

【国語A】（知識）

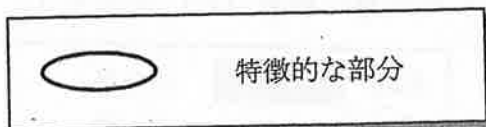


【国語B】（活用）



【グラフについて】

横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（%）を示している。



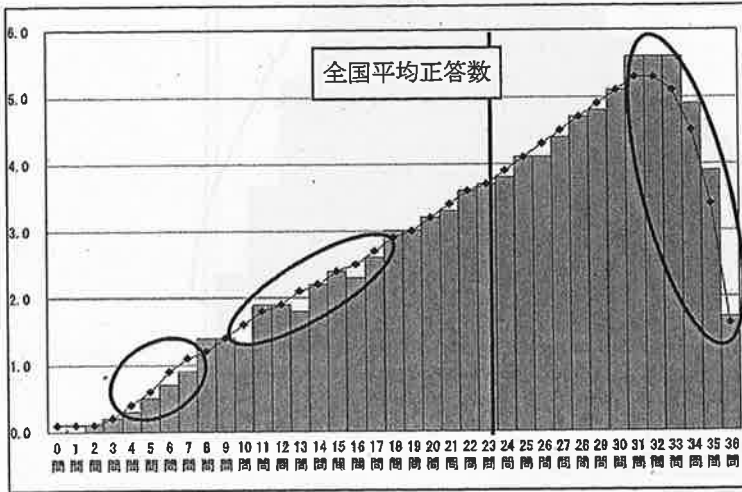


【中学校 数学】

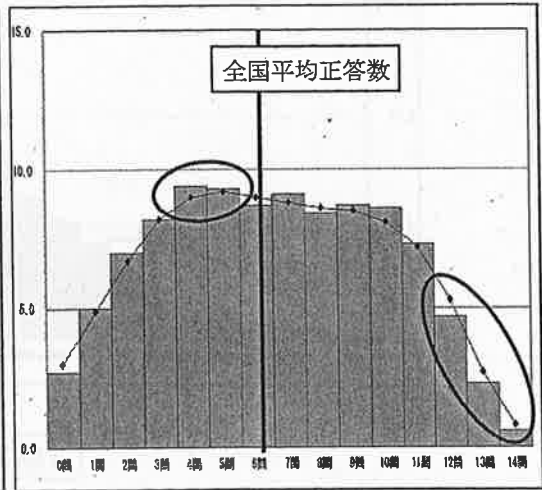
- 数学Aについては、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が高く、正答数の少ない生徒の割合が低い。
- 数学Bについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、正答数の多い生徒の割合が低く、全国平均正答数をやや下回る生徒の割合が高い。

平成30年度

【数学A】（知識）

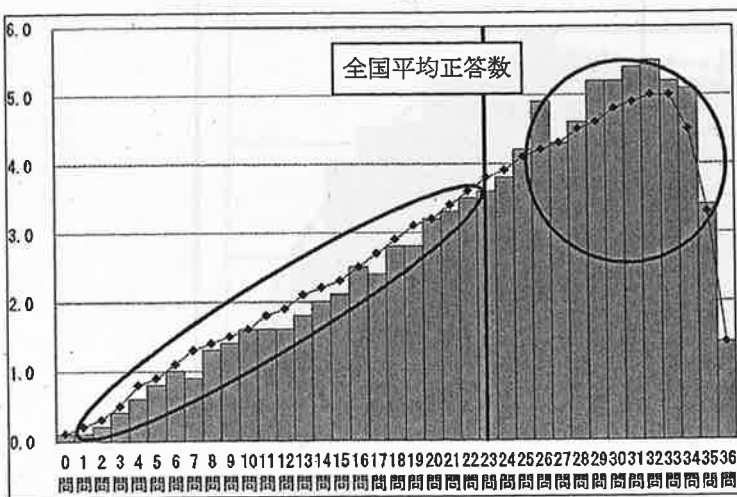


【数学B】（活用）

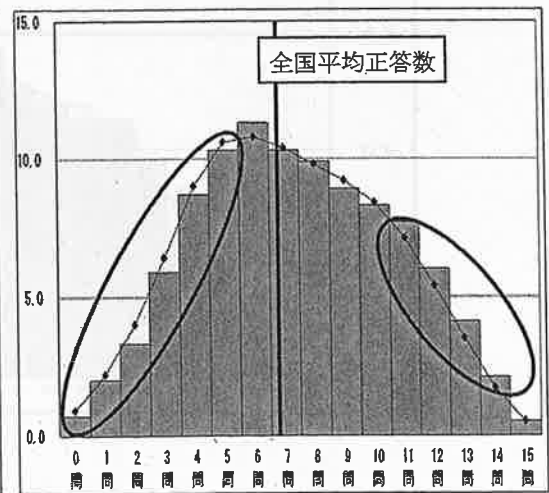


(参考) 平成29年度

【数学A】（知識）

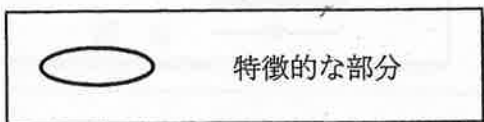


【数学B】（活用）



〔グラフについて〕

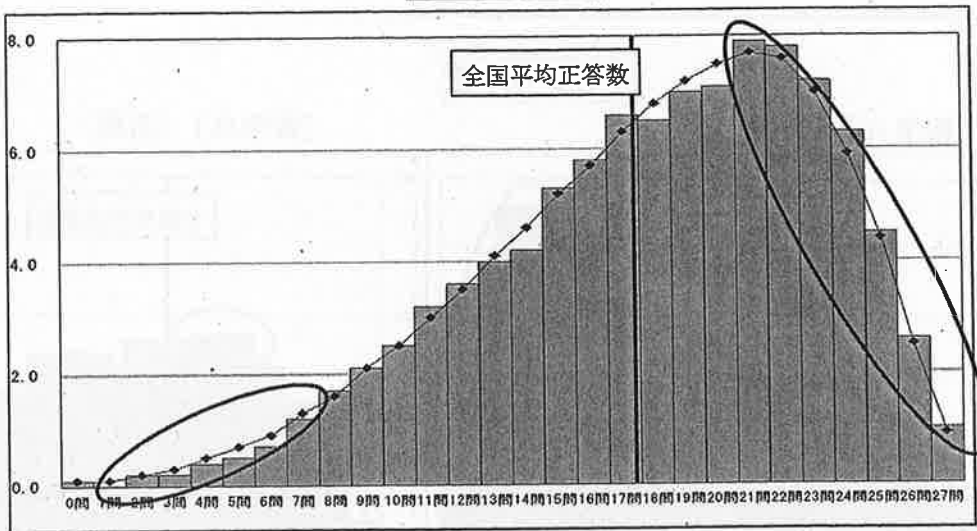
横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（％）を示している。



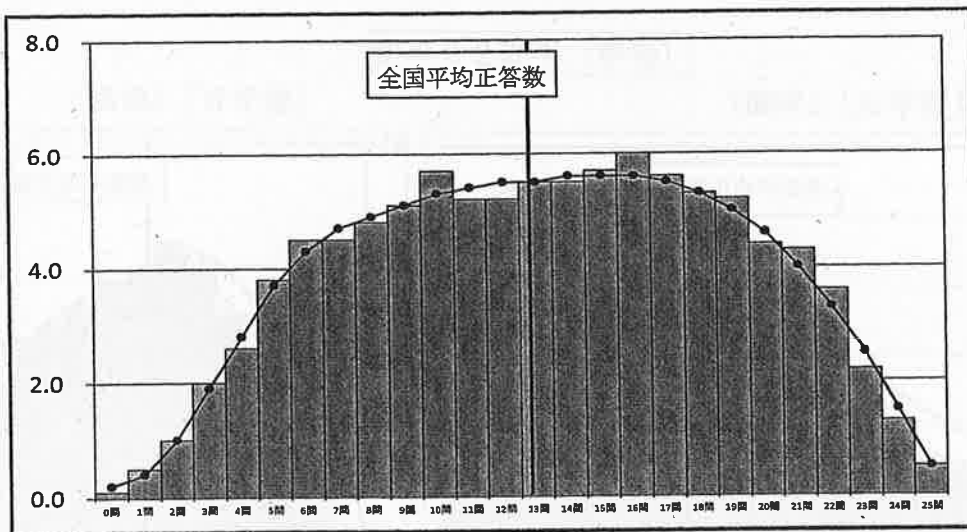
【中学校 理科】

- 全国と比べ正答数の多い生徒の割合が高く、正答数の少ない生徒の割合が低い。

平成30年度



(参考) 平成27年度



[グラフについて]  
 横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合 (%) を示している。

特徴的な部分

凡例

	山口県
	全国



## ⑤各教科ごとの結果

### ア 小学校国語

- 国語Aについては、平均正答率が72%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。
- 国語Bについては、平均正答率が57%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

### イ 小学校算数

- 算数Aについては、平均正答率が64%であり、全国平均と同程度であるが、知識・技能の定着に課題が見られる。
- 算数Bについては、平均正答率が52%であり、全国平均と同程度であるが、知識・技能の活用に課題が見られる。

### ウ 小学校理科

- 理科については、平均正答率が62%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。  
(「知識」に関する問題平均正答率：80%、「活用」に関する問題平均正答率：57%)

### エ 中学校国語

- 国語Aについては、平均正答率が77%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。
- 国語Bについては、平均正答率が61%であり、全国平均と同程度であるが、知識・技能の活用に課題が見られる。

### オ 中学校数学

- 数学Aについては、平均正答率が67%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着に課題が見られる。
- 数学Bについては、平均正答率が46%であり、全国平均を下回っており、知識・技能の活用に課題が見られる。

### カ 中学校理科

- 理科については、平均正答率が67%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着と活用に課題が見られる。  
(「知識」に関する問題平均正答率：68%、「活用」に関する問題平均正答率：66%)

(3) - ① 具体的な問題と解答状況 一小学校国語一

○相当数の児童ができている点

【小学校 国語A】

○ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことについて、正答率が高い。

1

1 村止さんは、駅で図書館への行き方をたずねられました。次の「二人の会話」で、村止さんほどのように説明していますか。その説明として適切なものを、あとの1から5までのなかから二つ選んで、その番号を書きましょう。

【二人の会話】

すみません、図書館へ行きたいのですが、どう行けばいいでしょうか。青山橋の先にあると聞いています。

青山橋までの行き方は分かりますか。

はい。青山橋までの行き方は分かります。でも、その先の行き方が分からないのです。

そうですね。では、その橋をわたってまっすぐ行くと左手に郵便局が見えます。そこを左に曲るとすぐに図書館が見えてきます。

村止さん

村止さん

村止さん

- 1 徒歩での時間を示した上で説明している。
- 2 図書館の様子を詳しく説明している。
- 3 相手の知識を確認した上で説明している。
- 4 目印になるものを示して説明している。
- 5 交差点の歌を確認しながら説明している。

【正答】 1 3, 4

	正答率
山口県	91.6%
全国	90.8%

【小学校 国語A】

○ 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことについて、正答率が高い。

6

【カード】

北村さんは、読んでいた本の中に出てきた表現の意味と使い方をカードにまとめています。北村さんが書いた「カード」の「ア」「イ」の中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までのなかからそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

◆ 使う方：  イ

◆ 意味：  ア

◆ 心を打たれる

ア

- 1 一つのことにも集中する。
- 2 速りよする。
- 3 活動する。
- 4 あれこれと心配する。

イ

- 1 オークスとオウの深美をきき、心を打たれる。
- 2 地域の発展のために、長い間、心を打たれる。
- 3 相手に失礼のないように心を打たれる。
- 4 同級生に心を打たれることを目指す。

【正答】 6 ア 3  
イ 1

	正答率
山口県	90.8%
全国	90.4%





(3) -② 具体的な問題と解答状況 一小学校算数一

○相当数の児童ができている点

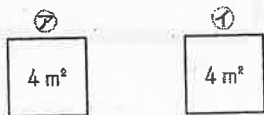
【小学校 算数A】

○ 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解することについて、正答率が高い。

4 (1)

こみぐあいについて、次の問題に答えましょう。

(1) ㊦と㊧の2つのシートがあります。㊦と㊧のシートの面積は、同じです。



次の表は、シートの上ですわっている人数とシートの面積を表しています。

すわっている人数とシートの面積		
	人数 (人)	面積 (m <sup>2</sup> )
㊦	6	4
㊧	9	4

上の表から、こみぐあいについてどのようなことがわかりますか。  
下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ㊦のほうがこんでいる。
- 2 ㊧のほうがこんでいる。
- 3 どちらもこみぐあいは同じである。

	正答率
山口県	89.7%
全国	87.8%

【正答】 4 (1) 2

【小学校 算数A】

○ 180° の角の大きさを理解することについて、正答率が高い。

5 (1)

図1のように、円の中心である点アと円周上の点イを直線で結び辺アイとし、点アと円周上の点ウを直線で結び辺アウとして、これらの辺がつくる角を、角㊦としました。

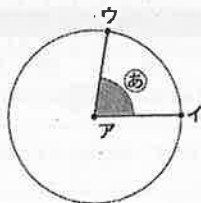


図1

図2のように、辺アウを矢印の向きに動かして角㊦の角度を大きくしていきます。

図3のように、辺アイと辺アウが一直線になったときの角を、角㊧とします。また、図4のときの角を、角㊨とします。

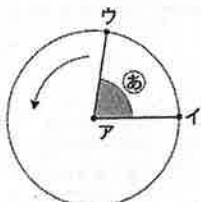


図2

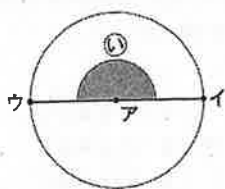


図3

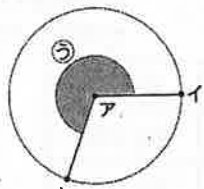
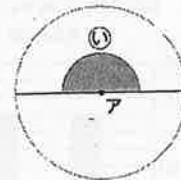


図4

(1) 左ページの図3のときの角㊧の角度は何度ですか。下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 0°
- 2 90°
- 3 180°
- 4 270°
- 5 360°

【正答】 5 (1) 3

	正答率
山口県	95.1%
全国	94.4%

●課題のある点

【小学校 算数A】

- 直径の長さとお周の長さの関係について理解することについて、課題が見られる。

7 (2) (2) 下の文の  にあてはまるものを考えます。

円があります。この円の直径の長さを2倍にします。  
このとき、直径の長さを2倍にした円の円周の長さは、もとの円の円周の長さの  倍になります。

上の文の  にあてはまるものを、下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 2
- イ 3.14
- ウ 4
- エ 6.28

【正答】 7 (2) ア

	正答率
山口県	48.5%
全国	55.6%

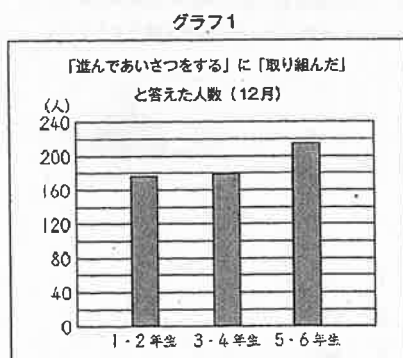
【小学校 算数B】

- 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断することについて、課題が見られる。

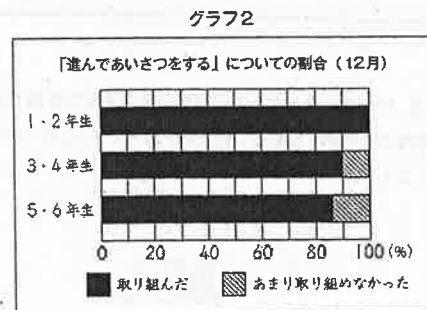
3 (2)

しおりさんたちは、「進んであいさつをする」について、12月のアンケート調査の結果を、1・2年生、3・4年生、5・6年生に分けて調べました。

そして、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数を、グラフ1に表しました。



しおりさんたちは、1・2年生、3・4年生、5・6年生それぞれの、学年の人数をもとにしたときの「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合を求め、グラフ2に表しました。



(2) グラフ1とグラフ2を見て、次のようにまとめます。

- ・ 「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん少ないのは [ ㉞ ] です。
- ・ [ ㉞ ] の、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合は、いちばん [ ㉟ ] です。

上の㉞にあてはまるものを、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㉟にあてはまるものを、下の4と5から選んで、その番号を書きましょう。



「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん多いのは5・6年生ですね。



でも、1・2年生、3・4年生、5・6年生の学年の人数が、それぞれ175人、200人、250人と、ちがうので、「取り組んだ」と答えた人数の割合も調べてみませんか。

【正答】 3 (2)

㉞ 1      ㉟ 5

	正答率
山口県	22.4%
全国	23.9%

- 1 1・2年生
- 2 3・4年生
- 3 5・6年生
- ㉞ 4 小さい
- ㉟ 5 大きい

(3) -③ 具体的な問題と解答状況 -小学校理科-

○相当数の児童ができています

【小学校 理科】

○ より妥当な考えをつくりだすために、二つの異なる方法の実験結果を分析して考察することについて、正答率が高い。

4 (2)

正しくろ過した海水をペットボトルに入れたところ、海水と水道水の区別がつかなくなりました。



どちらが海水だったかな。



ペットボトル① ペットボトル②

区別する方法を考えてみよう。



まもるさん

ゆかりさんたちは、次の方法で調べることにしました。

ゆかりさんの考えた実験方法

ペットボトル①とペットボトル②に入っている水を蒸発させる

ペットボトルに入っている水をそれぞれ蒸発皿に入れる。

ペットボトル①

ペットボトル②

まもるさんの考えた実験方法

ペットボトル①とペットボトル②に入っている同じ体積の水の重さを比べる

ペットボトルに入っている水を同じ体積はかりとる。

ペットボトル①

ペットボトル②

二人の方法で実験をすると、下のような結果になりました。

ゆかりさんの考えた実験方法と結果	
ペットボトル①とペットボトル②に入っている水を蒸発させる	
ペットボトル①	何も残らない
ペットボトル②	白い物が残る

まもるさんの考えた実験方法と結果	
ペットボトル①とペットボトル②に入っている同じ体積の水の重さを比べる	
ペットボトル①	200g
ペットボトル②	202g

(2) ゆかりさんとまもるさんが行った実験の結果から、海水が入っているのは、ペットボトル①とペットボトル②のどちらだと考えられますか。下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 海水が入っているのは、ペットボトル①と考えられる。
- 2 海水が入っているのは、ペットボトル②と考えられる。
- 3 2つの実験の結果からは、判断できない。

【正答】 4 (2) 2

	正答率
山口県	90.1%
全国	89.4%

【小学校 理科】

○ 堆積作用に関する科学的な言葉や概念を理解することについて、正答率が高い。

2 (1)

2

かつやさんたちは、川のようなすを安全に気をつけながら観察しています。



かつやさんは、自分が立っている岸と向こう岸のようすのちがいに気づき、このちがいが生じる原因を次のように予想しました。



流れる水のはたらきにより、川が曲がっているところの外側では地面がけずられて、内側では流れてきた土や石を積もらせるからだと思うよ。

(1) かつやさんの予想にあるような、流れる水の「土や石を積もらせる」はたらきを何といいますか。そのことばを下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たい積<sup>たいせき</sup>
- 2 運ばん<sup>うんぱん</sup>
- 3 しん食<sup>しんじく</sup>

【正答】 2 (1) 1

	正答率
山口県	85.9%
全国	83.6%



●課題のある点

【小学校 理科】

- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することについて、課題が見られる。

2 (3)

よしさんは、川を流れる水の速さと地面のけずられ方について、次のように予想をしました。



川を流れる水の速さは、川の上のほうから下のほうへ流れていくほど速くなると思うから、川の上のほうでは、川が曲がっているところの外側も内側もけずられなければ、川の下の方では、外側も内側もけずられると思うよ。

そこで、よしさんは、自分の予想を確かめるために、下の図の方法で実験することにしました。

**実験方法**

- ①土を入れた箱をかたむけて置き、右の図のような曲がっているところがあるみぞをつくる。
- ②曲がっているところの外側と内側に棒を立てる。
- ③ビーカーの水を流す。
- ④棒のようすを調べる。
- ⑤1回ごとに土や棒を元にもどし、3回実験する。

**水の量を変えた実験**

- ①地面のけずられ方についてくわしく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。
- ②1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。

**実験結果**

1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす	2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす

(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増え、川が曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになるかと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

よしさんが実験した結果は、下の表のようになりました。

**実験結果**

ア		イ	
1回目	たおれた	1回目	たおれない
2回目	たおれた	2回目	たおれた
3回目	たおれた	3回目	たおれない

ウ		エ	
1回目	たおれない	1回目	たおれた
2回目	たおれた	2回目	たおれた
3回目	たおれない	3回目	たおれた

上の実験の結果で2回目だけイとウに立てた棒がたおれたことに疑問をもったかつやさんたちは、2回目だけ水の流し方が曲がっていたのではないかと考えました。



2回目は、ビーカーから一度に流した水の量が多かったかもしれない。



実際に大雨が降って川を流れる水の量が増え、流れる水が地面をけずるようすも変わるのではないかな。

そこで、かつやさんたちは、次のページのような実験をすることにしました。

【正答】 2 (3)

(番号) 1

(わけ)

2本のペットボトルの水を同時に流して、水の量を増やすとみぞの曲がっているところの外側と内側の両方とも棒がたおれたから。

	正答率
山口県	22.1%
全国	20.1%

【小学校 理科】

● 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することについて、課題が見られる。

4 (4)

しばらく魚を飼育していると、水そうに入っている水が減ってきました。



水だけが蒸発したから、水そうの食塩水がこくなって、魚によくないよ。だいじょうぶかな。



ゆかりさん

食塩は蒸発しないから、1gちょうど出てくると思うよ。



まもるさん

食塩も蒸発するから、1gより少なくなると思うよ。

食塩も水と一緒に蒸発するから、食塩のこさは変わらないので、だいじょうぶだと思うけれど・・・


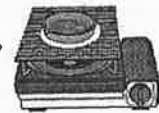



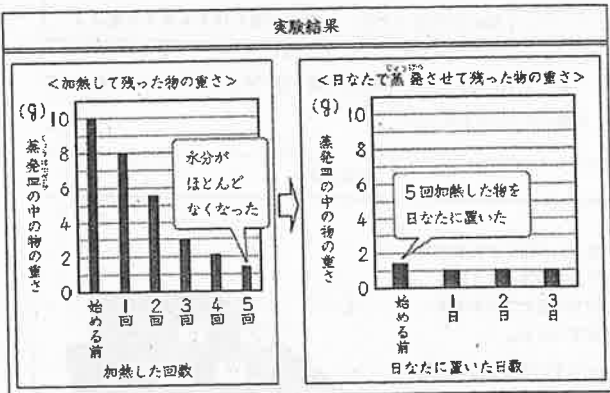
まもるさん

ゆかりさんたちは、まもるさんの考えを確かめるために、次のように問題を立て、実験することにしました。

【問題】 食塩水の食塩は、蒸発するのだろうか。

**実験方法**

<p>1gの食塩に水を加えて10gにした食塩水すべてを蒸発皿に入れる。</p> 	<p>実験用ガスコンロで1分間加熱し、冷ましてから重さをはかる。水分がほとんどなくなるまで、くり返す。</p> 	<p>日なたに置いて蒸発させ、1日ごとに重さをはかる。</p> 
---	---	---



ゆかりさんは、実験の結果からいえることを、下のようによまとめました。

【実験の結果からいえること】 水にとけた物は蒸発しない。

この実験の結果からそこまでいいのかな?



まもるさん

(4) ゆかりさんが【実験の結果からいえること】としてまとめた内容は、

【問題】に対するまとめとしてふさわしくありません。

ふさわしいまとめになるように書き直しましょう。

**【正答例】** 4 (4)  
食塩水の食塩は、蒸発しない。

	正答率
山口県	37.0%
全国	35.9%

(3) -④ 具体的な問題と解答状況 ー中学校国語ー

○相当数の生徒ができている点

【中学校 国語A】

○ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことについて、正答率が高い。

1 ー

- 5 出田さんのスピーチの構成がどのように工夫されているのかを考えています。
- 4 山田さんの録音に着目し、自分の経験と結び付けて話の内容に共感することができています。
- 3 山田さんの姿と自分の姿とを比べて、質問したい内容を発見することができています。
- 2 山田さんの言葉の調子や間の取り方、話す速度に着目することができています。
- 1 山田さんの言葉遣いや顔の運び方が適切かどうかを考えています。

【村井さんの感想】と【清水さんの感想】に対して先生が述べた言葉として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

【清水さんの感想】  
スピーチの始めに自分が頑張りたいことを話し、次になぜ頑張りたいのかを詳細をもとに話していたので、説得力がありました。また、最後に例を挙げて頑張りたいのかをもう一度述べていたので、山田さんの英語の勉強に対する思いが強く印象に残りました。自分が伝えたいことを繰り返し述べるような筋の組み立て方は効果的だと思います。

【村井さんの感想】  
山田さんが具体的な経験を詳しく話してくれたので、なぜ英語を頑張りたいのかがとてもよく分かりました。私も英語で遊べるようになったことがあります。私の場合、相手の行きたくない場所には分りましたが、そこまでの道順を覚えるなどのように説明すればよいかが分かりません。何も書かずに話したため、山田さんが英語で遊業内ができたというのを聞いて、うらやましく思いました。私も、これからは、山田さんと同じように実際に使う場面を考えながら、準備を勉強していきたいです。

私が頑張りたいと思っていることは、英語の勉強です。先日バス停で、外国の方に「Excuse me」と話しかけられ、英語で駅までの道順を尋ねられました。私は英語が苦手なので、一時、その場から逃げ出したい気持ちになりました。しかし、きちんと伝えなければ相手が困るだろうと考え、授業で道案内について学習したことを思い出しながら、goやturnなどの単語を使い、身振り手振りを交えて説明しました。時間がかりましたが、何とか駅までの道順を伝えることができました。最後に「Thank you」と言われたので、「You're welcome.」と答えたら、相手は笑顔で手を振りながら駅に向かっていきました。自分の話した英語が外国の方に伝わってとてもうれしく思いました。決して上手な話し方ではなかったかもしれませんが、今まで学んできたことが実際の場面で役に立ってよかったです。

それ以来、私はもっと他の場面でも英語を使ってみたいと思うようになりました。これからは、実際に使う場面を考えながら、英語の勉強を頑張っていきたいと思います。



山田さん

1 山田さんは、「生活面や学習面で頑張りたいこと」というテーマでスピーチをしました。次は、山田さんの「スピーチ」と、それを聞いたあとの「村井さんの感想」と「清水さんの感想」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【正答】 1 ー 【村井さんの感想】 4  
【清水さんの感想】 5

	正答率
山口県	89.5%
全国	87.4%

【中学校 国語A】

○ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについて、正答率が高い。

- 8 三 次のアからキの文では、( )の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。
- ウ 先生が私たちに大切なことを ( 1 申し上げた 2 申した 3 お言いした 4 おっしゃった ) 。

【正答】 8 三 4

	正答率
山口県	91.6%
全国	88.0%

●課題のある点

【中学校 国語A】

● 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことについて、課題が見られる。

8 四2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

【正答例】  
8 四2 私は、スポーツ選手の努力する姿に(心を打たれた。)

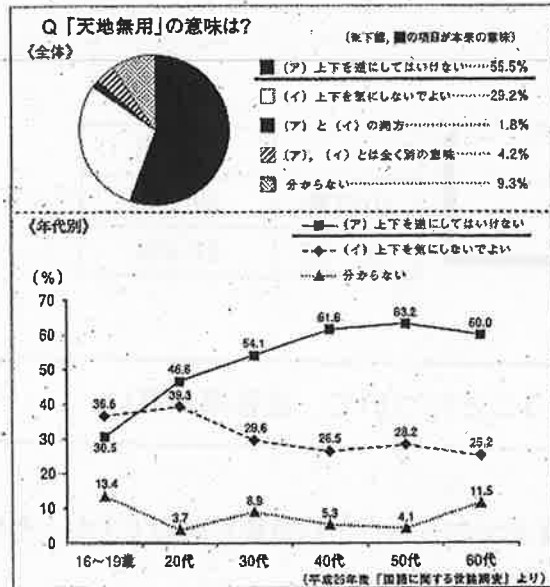
	正答率
山口県	18.6%
全国	22.3%

【中学校 国語B】

● 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことについて、課題が見られる。

1 三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【資料】



全体では、本来の意味である(ア)「上下を逆にしてはいけない」を誤って他人の割合(55.5%)が、本来の意味ではない(イ)「上下を気にしないでよい」を誤って他人の割合(29.2%)が、最も多い(60代でも25.2%)の人が(イ)を選んでおり、どの年代でも(イ)に1人以上の割合で、本来とは別の意味で考えていることが読み取れます。「天地無用」は、本来、誤解があらわれない注釈喚起の言葉ですから、見逃しできない結果であるといえるかもしれません。

1 ① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「宅配便が届いた段ボール箱は、天地無用だから、逆さまにしても大丈夫だ」この言い方が気になるあなた、受け取った荷物は大丈夫でしょうか？「天地無用」という言葉の意味について「国語に関する世論調査」で尋ねたところ、約3割の人が「上下を逆にしてはいけない」という意味だと回答しました。

では、「天地無用」とは本来どのような意味か、辞書で調べてみましょう。

【広辞苑 第六版】(宝島社) 運送する荷物の外装などに記す語で、この荷物を取り扱うのに、上下を逆にしてはいけないという意。てんちーむよう【天地無用】荷物、貨物などの包装の外側に記す語で、破損の恐れがあるため上下を逆さまにして取り扱ってはいけないという意味の注意。

【日本国語大辞典 第二版】(岩波書店) 小字 日本国語大辞典 第二版(1981年) 小字 天(てん)地(ち)無(む)用(よう) 運送する荷物の外装などに記す語で、破損の恐れがあるため上下を逆さまにして取り扱ってはいけないという意味の注意。

「天地無用」は、「荷物の上下を逆にしてはいけない」という意味です。段ボール箱の荷物などに、赤地に白抜きで「天地無用」と書かれたシールが貼られていることがあります。しかし、それだけでは意味が分からない人が少なからずいるからでしょうか。最近では、記号やイラストを用いて視覚に訴えたり、「UP」「この面を上」などといった情報を書き足したりして、より分かりやすく示そうとする例が多くなっています。

平成25年度の「国語に関する世論調査」で、「天地無用の荷物」という削文を挙げて、その意味を尋ねました。結果は次のとおりです。全体では、本来の意味である(ア)「上下を逆にしてはいけない」を誤って他人の割合(55.5%)が、本来の意味ではない(イ)「上下を気にしないでよい」を誤って他人の割合(29.2%)が、最も多い(60代でも25.2%)の人が(イ)を選んでおり、どの年代でも(イ)に1人以上の割合で、本来とは別の意味で考えていることが読み取れます。「天地無用」は、本来、誤解があらわれない注釈喚起の言葉ですから、見逃しできない結果であるといえるかもしれません。

では、「天地無用」を「上下を気にしないこと」という意味で受け取る人が多いのは、どのような理由があるのでしょうか。その前提として、「無用」の意味を調べてみましょう。

『岩波国語辞典 第7版新編』(全2巻2千・岩波書店)

むよう「無用」①役に立たないこと。いらぬこと。「心配野」②してはならないこと。「立入り」「天地」(上下を) 地にしてはならないこと(注意書)③用事が無いこと。「の者 入るべからず」

②の例にあるように「天地無用」の「無用」は「してはならないこと」という意味です。

かつてアニメ番組「ドラえもん」の主題歌の中に「無用な無用」という言葉がありました。これは「無用な無用」という意味で、「天地無用」も同じ使い方です。

このように「無用」の用法は、かつては後書きなどによく見られました。しかし、現在は「落書き禁止」「立入り禁止」など、「禁止」という言葉を用いたり、もっと丁寧な「……しないでください」「……は御遠慮ください」などと書かれたりするように変わります。そのため、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味での使い方があつたこと自体、分かりにくくなつてい

かもしません。また、「無用」の意味が「してはならないこと」であると分かつていたとしても、「天地してはならない」では、意味が通じません。「天地無用」は「天地を逆にする」こと「無用」のように、傍線部に当たる内容が省略された言い方になって、いるのです。字面だけを見ても、そのことは分かりませんから、本来の意味で読み取るのは難しいでしょう。

「落書き」や「立入り」とは違って、「天地」という言葉自体は「してはならない」というような内容がありません。「逆にする」という省略部分に気づかなければ、「無用」の意味は「役に立たないこと。いらぬこと」や「用事が無いこと」に取られかねないので、その結果、「天地はいらぬ」はずは気にしなくていい、「天地に用事は無い」天地は関係ない」などと解釈されることになりやすくと考えられます。

「天地無用」という言葉は、いつも祝物を取り扱っている人や、意味を知っている人にはよく当たり前のものかもしれませんが、初めて目にした場合には解釈が難しい表現です。「国語」に関する世論調査<sup>④</sup>でも、反対の意味だと考へている人と意味が分らないという人を合わせると4割近いという結果でした。

④文化庁国語室「文化庁国語室の専断しやす日本語による」

トラブルを避けるため、今後は分かりやすく言い換えたり、表示を工夫したりするなどの配慮が必要かもしれません。

【正答例】

1 三 現在は、「してはならないこと」という意味を表す際に、「無用」以外の言葉を使うことが多く、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味があることが分かりにくくなっているのかもしれないから。また、「天地無用」は「逆にすること」に当たる内容が省略された言い方になっていて、それに気付かないと「無用」を他の意味で捉えかねないから。

	正答率
山口県	11.6%
全国	13.3%

(3) -⑤ 具体的な問題と解答状況 -中学校数学-

○相当数の生徒ができている点

【中学校 数学A】

○ 簡単な連立二元一次方程式を解くことについて、正答率が高い。

③ (3) 連立方程式  $\begin{cases} 5x - 2y = 10 \\ 3x - 2y = 2 \end{cases}$  を解きなさい。

【正答】  
③ (3)  $x = 4, y = 5$

	正答率
山口県	81.0%
全国	80.0%

【中学校 数学B】

○ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることについて、正答率が高い。

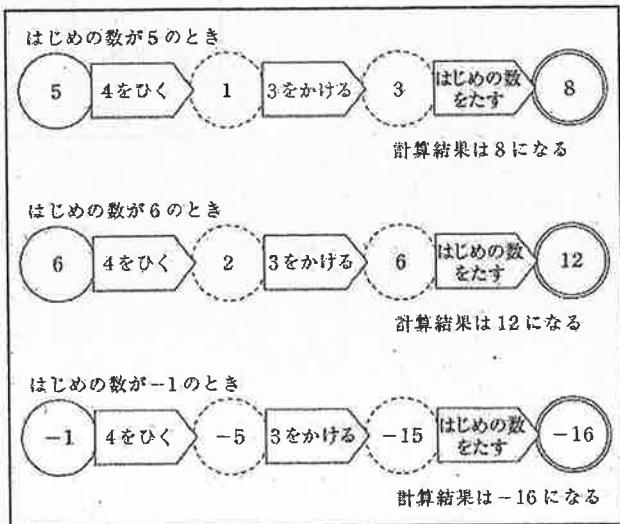
② (1)

次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



海斗さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が5、6、-1のときは、それぞれ下のような計算になります。

計算の例



【正答】② (1) 28

	正答率
山口県	89.5%
全国	89.5%

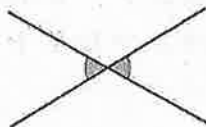
(1) はじめの数が10のときの計算結果を求めなさい。

●課題のある点

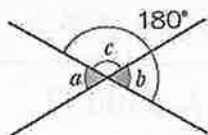
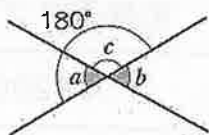
【中学校 数学A】

- 証明の必要性和意味を理解することについて、課題が見られる。

8 ある学級で、「対頂角は等しい」ことの証明について、次の①、②を比べて考えています。

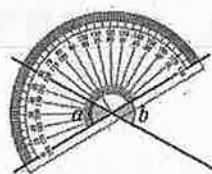


① 下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、

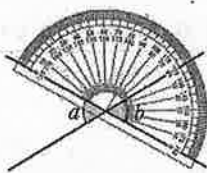


$\angle a + \angle c = 180^\circ$  から、 $\angle a = 180^\circ - \angle c$   
 $\angle b + \angle c = 180^\circ$  から、 $\angle b = 180^\circ - \angle c$   
 よって、 $\angle a = \angle b$   
 したがって、対頂角は等しい。

② 下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、 $\angle a$ と $\angle b$ の大きさをそれぞれ測ると、



$\angle a = 60^\circ$



$\angle b = 60^\circ$

また、2つの直線の交わる角度を変えて、同じように測ると、  
 $\angle a = 40^\circ$  のとき  $\angle b = 40^\circ$   
 $\angle a = 90^\circ$  のとき  $\angle b = 90^\circ$   
 $\angle a = 110^\circ$  のとき  $\angle b = 110^\circ$   
 よって、 $\angle a = \angle b$   
 したがって、対頂角は等しい。

①、②がそれぞれ「対頂角は等しい」ことを証明できているかどうかについて、正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア ①も②も証明できている。
- イ ①は証明できているが、②は証明できていない。
- ウ ①は証明できていないが、②は証明できている。
- エ ①も②も証明できていない。

【正答】 8 イ

	正答率
山口県	44.4%
全国	45.5%

【中学校 数学B】

- 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することについて、課題が見られる。

- 5 (1) 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人 3500円	1人 3200円
団体料金	1人 2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

- (1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

【正答】 5 (1)  $\frac{560}{3500} \times 100$

	正答率
山口県	13.6%
全国	16.0%



(3) -⑥ 具体的な問題と解答状況 —中学校理科—

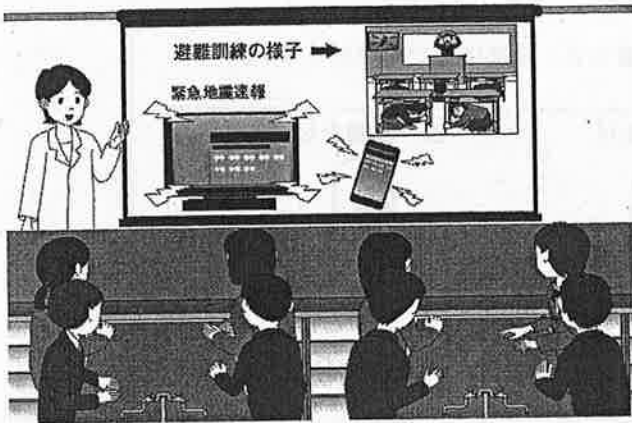
○相当数の生徒ができています

【中学校 理科】

○ 初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識や音の速さに関する知識を活用することについて、正答率が高い。

7 (3)

7 「緊急地震速報による避難訓練」の後、理科の授業で地震の学習を行い、科学的に探究しました。  
(1)から(3)までの各問に答えなさい。



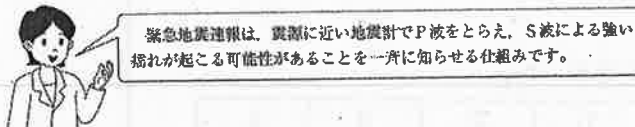
理科の授業場面3

緊急地震速報は、P波とS波の伝わる速さの違いを利用しています。ところで、体育大会で太鼓をたたく動きを離れたところから観察すると、動きに対して音が遅れて聞こえるを経験したことはありませんか。地震と太鼓を関連付けて考えてみましょう。

地震	太鼓
P波が届く	太鼓をたたいた瞬間が見える
S波が届く	太鼓の <input type="checkbox"/> X が届く
初期微動継続時間	太鼓をたたいた瞬間が見えてから、太鼓の <input type="checkbox"/> X が届くまでの時間

(3) 上の表の  X に適する語句を1つ書きなさい。

理科の授業場面1



【正答例】 7 (3)

- ・音（音色、音響など）
- ・音波（波、縦波など）
- ・振動（震動、震え、揺れ、響きなど）

	正答率
山口県	95.0%
全国	94.4%

● 課題のある点  
【中学校 理科】

● 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することについて、課題が見られる。

9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くと湿度が上がって、インフルエンザの予防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。  
(1)と(2)の各問いに答えなさい。

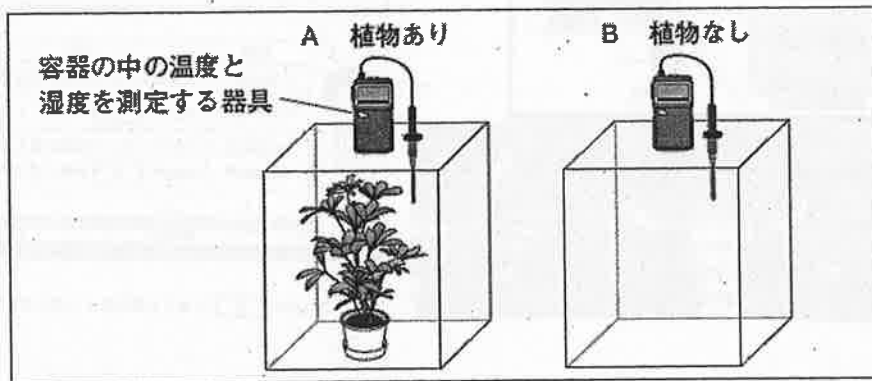
実験ノートの一部

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

課題

密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

【実験】



【結果】

AとBの容器の中の温度は22℃で変わらなかった。

時間 (時間)		0	1	2	3	4
湿度 (%)	A 植物あり	37	67	87	88	88
	B 植物なし	38	39	39	38	38

【考察】

実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

【新たな疑問】

水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

【正答例】 9 (2)

- ・土(鉢、皿)から水が蒸発して水蒸気となった。
- ・土(鉢、皿)から水蒸気が出た。
- ・土(鉢、皿)から水が蒸発した。

	正答率
山口県	18.8%
全国	19.4%

【中学校 理科】

- 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用することについて、課題が見られる。

3 (1)

- 3 秋菜さんは、コンピュータを使って、台風の情報を集めたり進路のシミュレーションをしたりして、科学的に探究しました。  
(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



集めた台風の情報

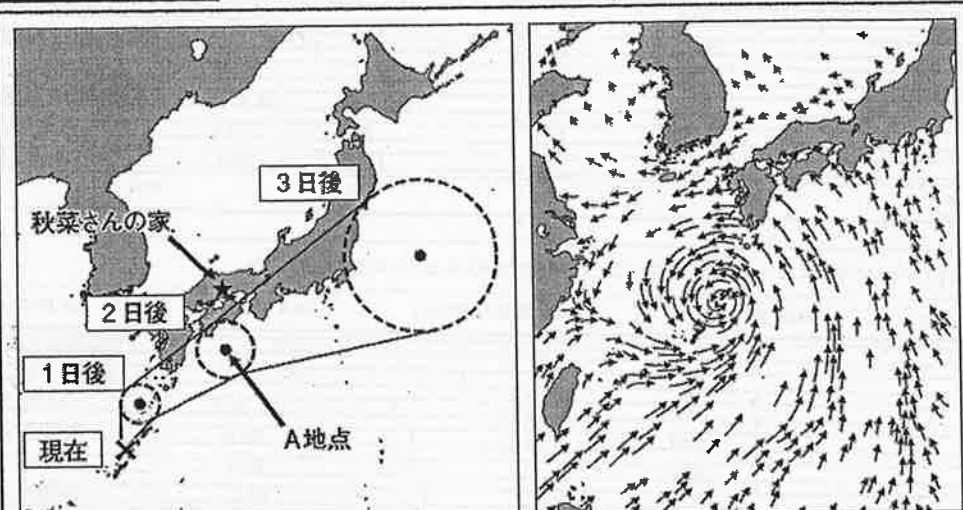
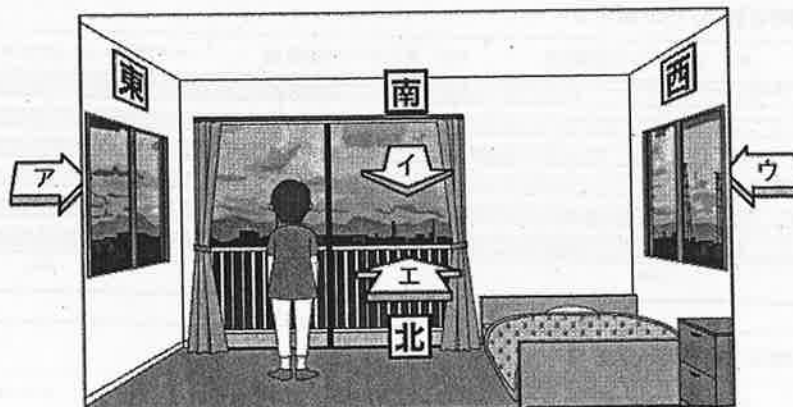


図1 台風の進路の予想図

図2 現在の台風の周りの風向

- 「X」は、現在の台風的位置
- 「○」は、予想される台風的位置
- 「★」印は、秋菜さんの家の位置

- (1) 台風的位置がA地点のとき、秋菜さんの家で観測される風向を、図2を参考にして予想しました。予想される風向として最も適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。



【正答】 3 (1) ア

	正答率
山口県	37.5%
全国	37.5%

## 2 質問紙調査の結果

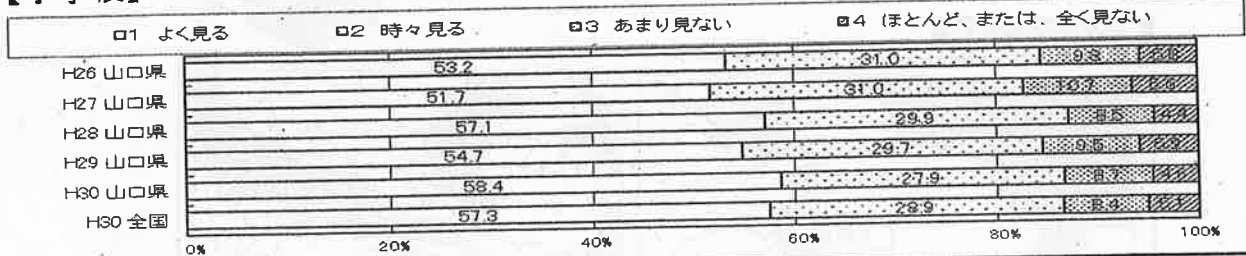
### (1) 児童生徒質問紙

#### ① 家庭での生活習慣

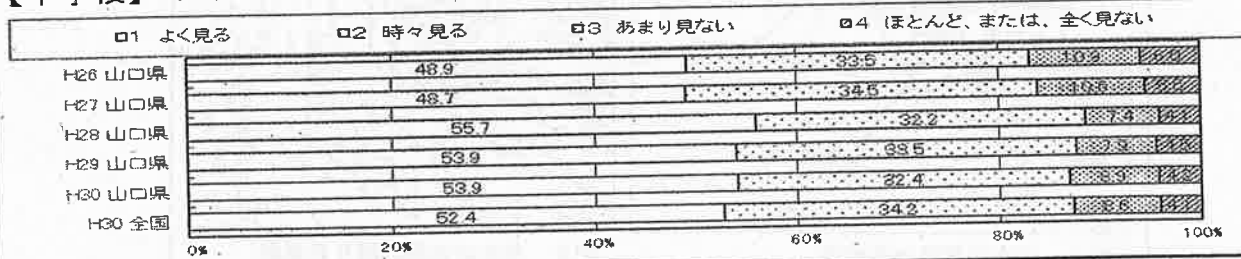
##### ア テレビやインターネットでのニュース視聴

- テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見ると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 児童生徒が、地域や社会に関心をもつだけでなく、幅広く情報を収集し、それらを整理・分析する力を育む学習活動を設定することが大切です。

【小学校】 (26) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか



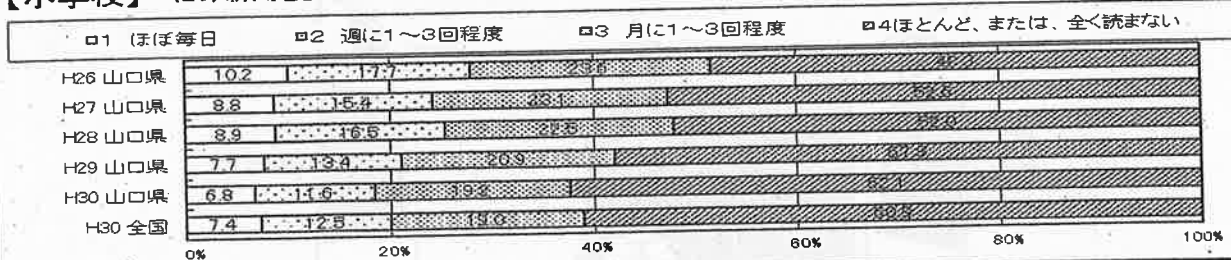
【中学校】 (26) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか



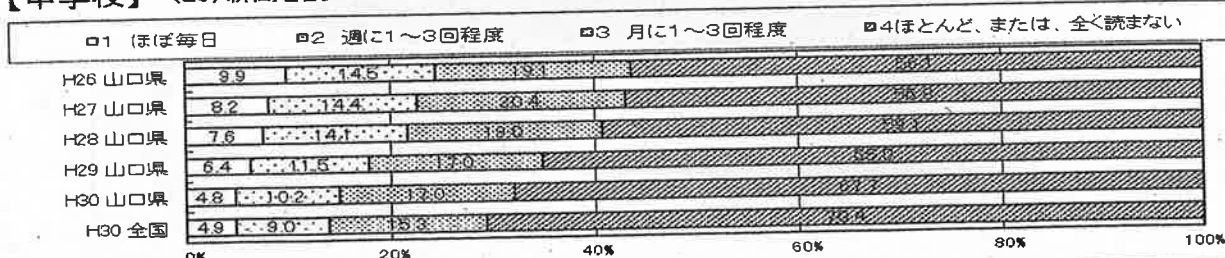
##### イ 新聞を読んでいる

- 新聞をほとんど、または、全く読まないと回答した児童生徒の割合は増加傾向が見られる。
- ☞ 地域や社会の動きに関心をもつことや情報活用能力の育成など、新聞のよさや効果を考え、学びの資料として活用することが大切です。

【小学校】 (25) 新聞を読んでいますか

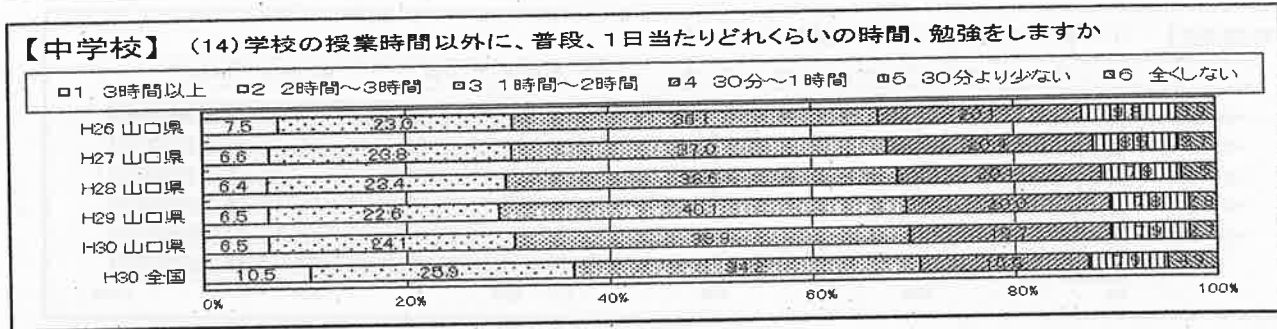
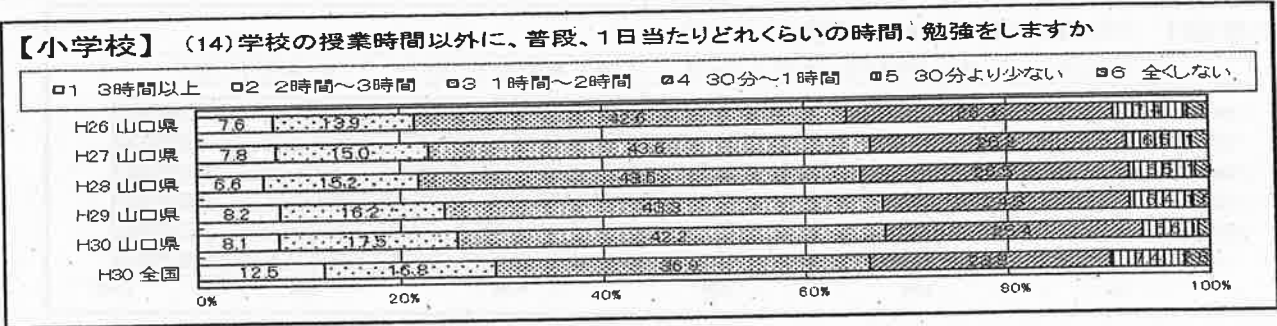


【中学校】 (25) 新聞を読んでいますか

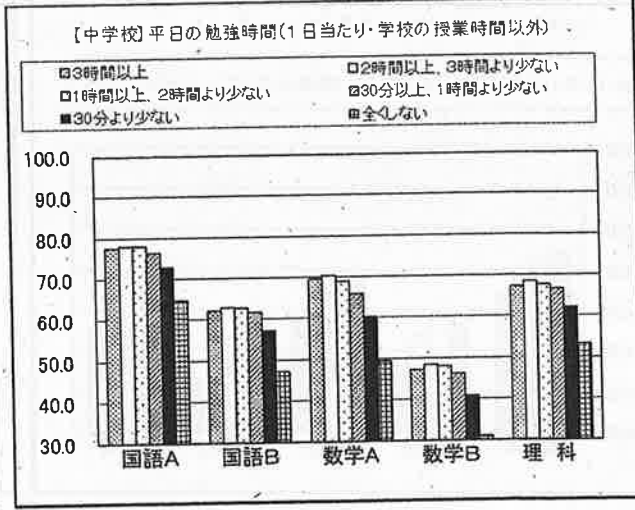
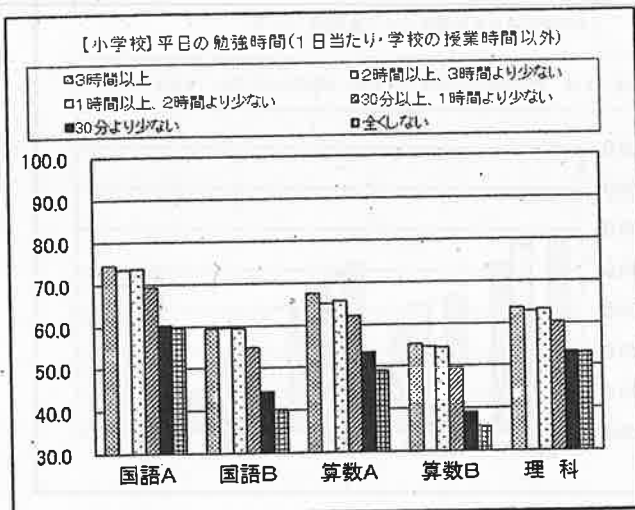


② 家庭での学習習慣  
ア 平日の学習時間

- 学校の授業時間以外に、平日、1日あたりに1時間以上勉強する児童生徒の割合は増加傾向にあるものの、2時間以上勉強する児童生徒の割合は、全国と比べて低い。
- ☞ 平日に、一定時間以上学習する児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。引き続き、家庭との連携・協力を密にし、平日の限られた時間を工夫しながら家庭学習に取り組む習慣を定着させていくとともに、学習する内容の質的向上を図る指導を充実することが大切です。



[教科の正答率との関係]

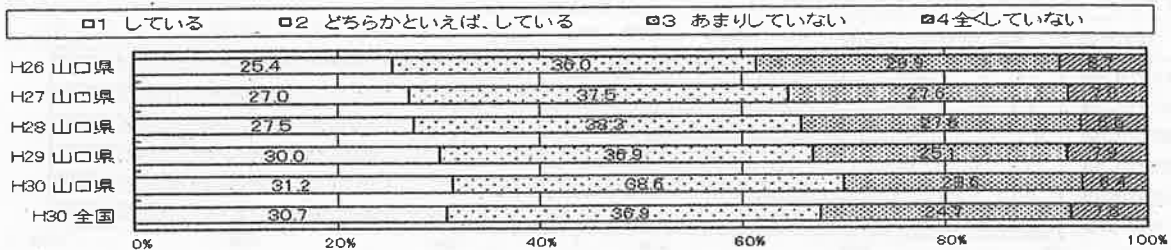




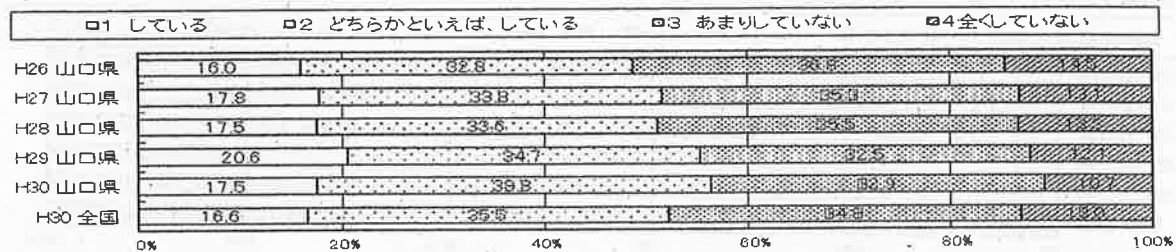
## イ 自分で計画を立てた学習

- 家で、自分で計画を立てて勉強している、または、どちらかといえばしていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 全くしていないと回答した生徒の割合は10.7%である。
- ☞ 家庭学習の手引きを活用し、具体的な学習計画の立て方を指導したり、身近な好事例を示したりすることで、児童生徒が見通しをもって学習する習慣を確立できるよう、今後も、継続した指導が必要です。

【小学校】 (10)自分で計画を立てて勉強をしている

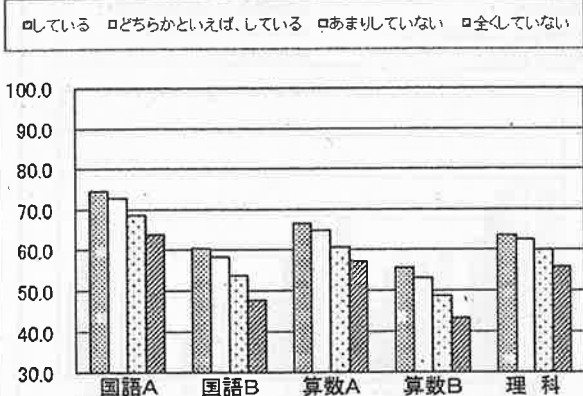


【中学校】 (10)自分で計画を立てて勉強をしている

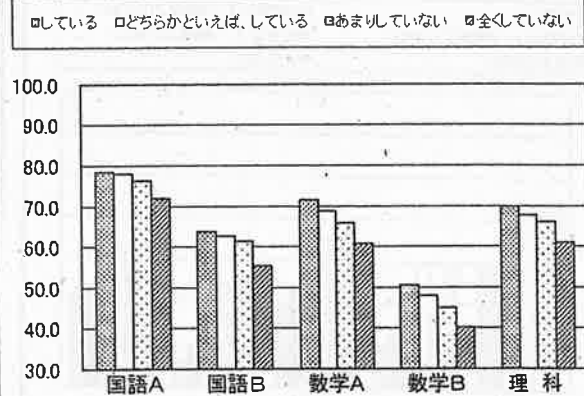


### [教科の正答率との関係]

【小学校】自分で計画を立てて勉強をしている



【中学校】自分で計画を立てて勉強をしている

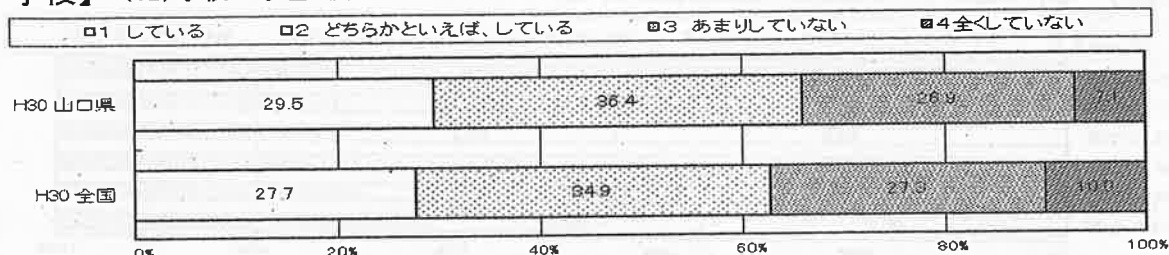


## ウ 学校の授業の予習・復習

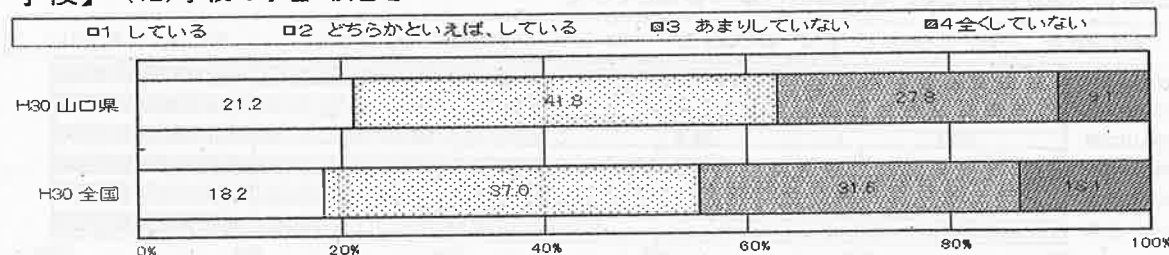
○ 学校の授業の予習・復習をしている、または、どちらかと言えばしていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

☞ 日々の授業において、予習・復習など、家庭での学習課題を適切に与えたり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を指導したりすることが大切です。

【小学校】 (12)学校の予習・復習をしている



【中学校】 (12)学校の予習・復習をしている



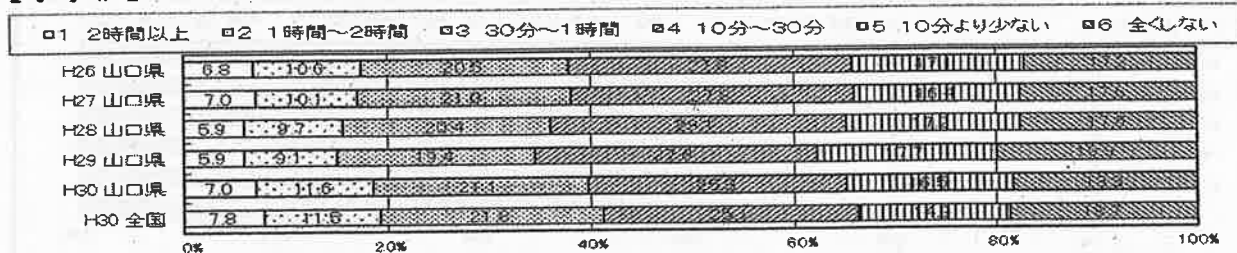
## エ 平日の読書時間

○ 平日に読書をする児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

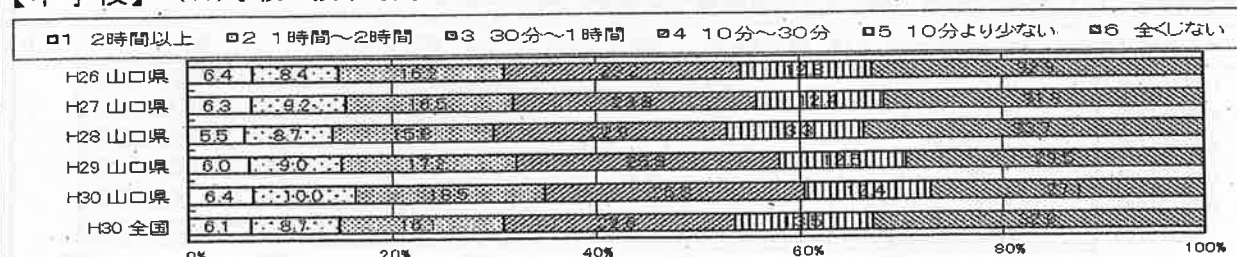
● 平日に全く読書をしないと回答した児童の割合は18.3%、生徒の割合は27.1%である。

☞ 引き続き、児童生徒が読書の楽しさに触れる機会をもつことができるよう、学校での朝読書の時間の設定や、授業での学校図書館等の利用を進めるとともに、学校・家庭・地域が一体となって読書習慣の定着を図る必要があります。

【小学校】 (15)学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



【中学校】 (15)学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

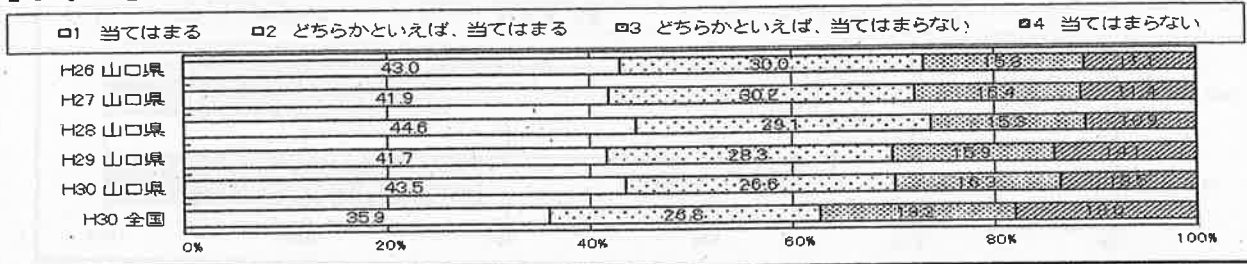


### ③ 地域との関わり

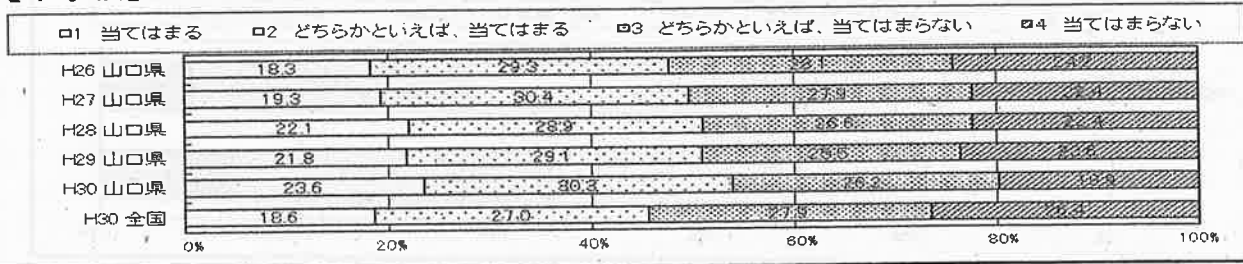
#### ア 地域行事への参加

- 今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域や伝統、文化に対する理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育む教育活動のさらなる充実を図ることが大切です。

【小学校】 (20) 今住んでいる地域の行事に参加している



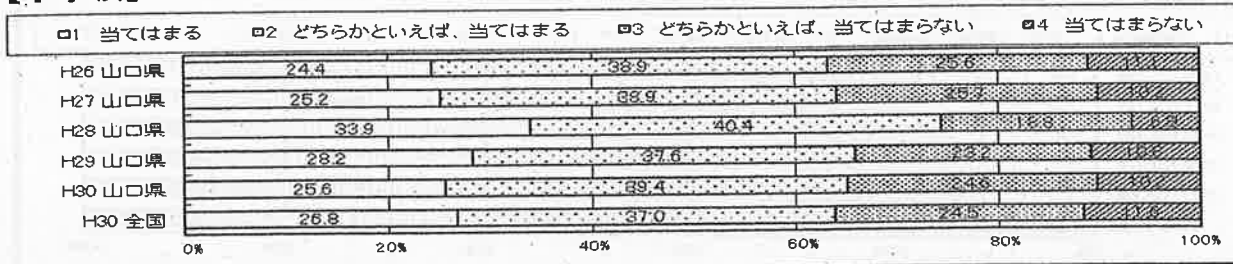
【中学校】 (20) 今住んでいる地域の行事に参加している



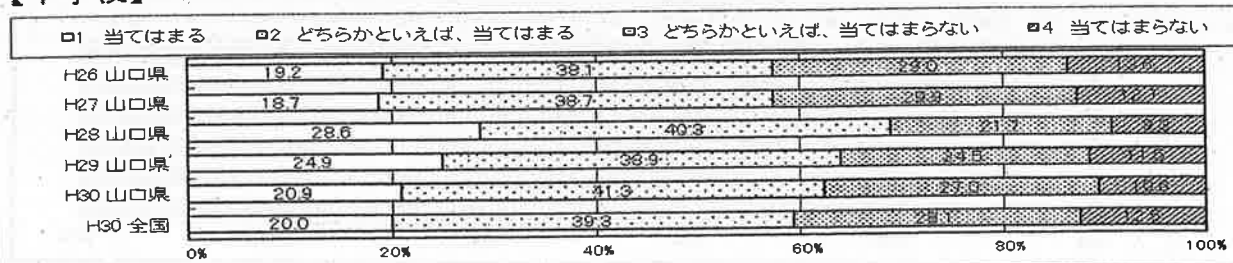
#### イ 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心

- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、減少傾向が見られる。
- ☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、児童生徒が、地域を身近に感じ、様々な出来事に関心を持ち、地域や社会とのつながりを大切にするための教育活動や指導の充実が求められます。

【小学校】 (21) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



【中学校】 (21) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



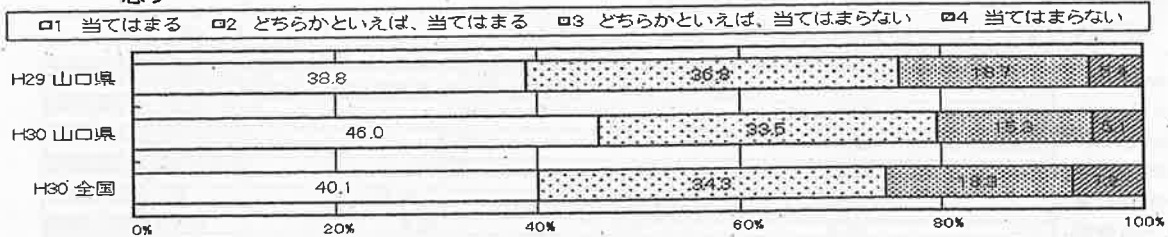


## ウ 授業等で地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会

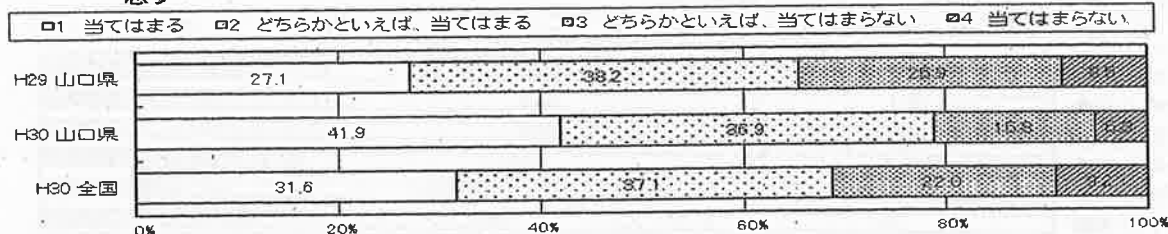
○ 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域のもの・人とのつながりを大切に、地域とともにある学校づくりを推進していくカリキュラム・マネジメントが求められます。

【小学校】 (19) 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う



【中学校】 (19) 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う

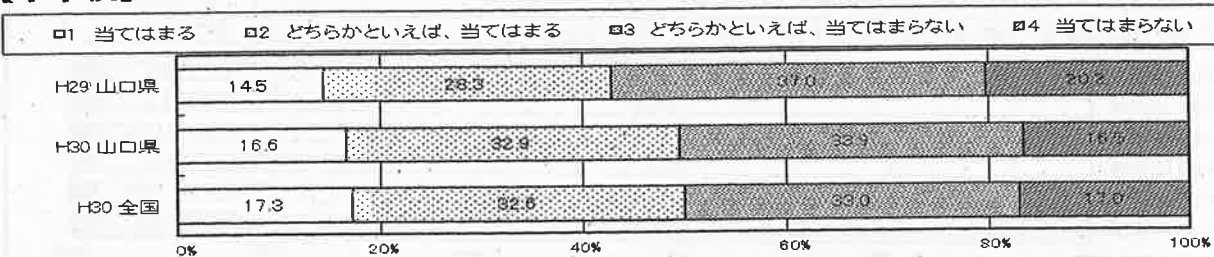


## エ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える

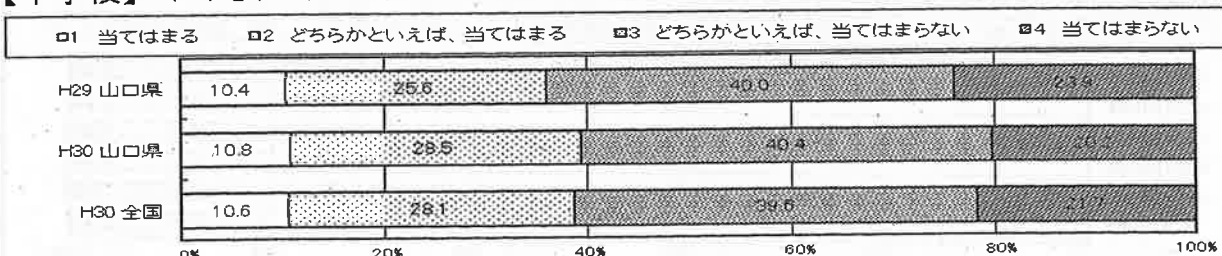
○ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童生徒の割合は、増加傾向が見られる。

☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域とのつながりや地域貢献の意識を高める教育活動や指導の充実が求められます。

【小学校】 (22) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある



【中学校】 (22) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

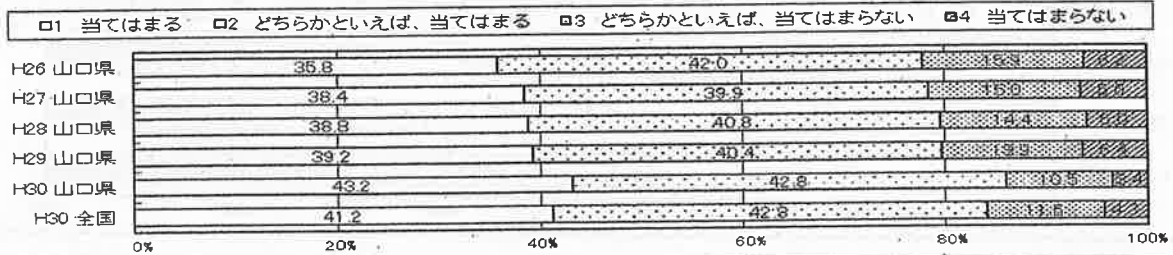


#### ④ 子どもたちの意識

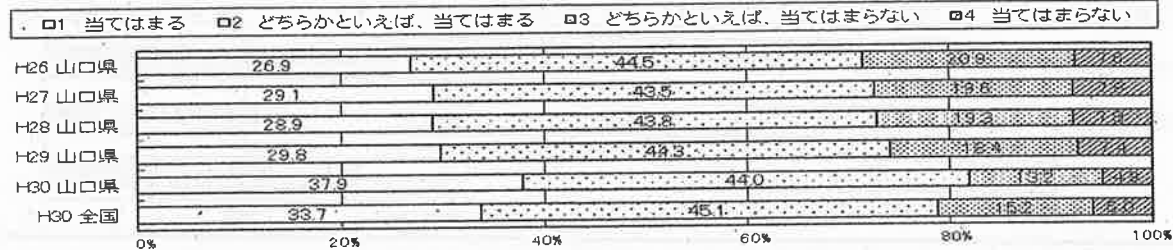
##### ア 自分にはよいところがある

- 自分にはよいところがあると思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、教員や保護者、地域住民等の多様な大人たちとの関わりの中で、自分のよさを具体的に認めたり適切に評価したりできる機会の設定や指導の一層の充実を図り、児童生徒の自己肯定感を育むことが大切です。

##### 【小学校】 (1)自分には、よいところがあると思う



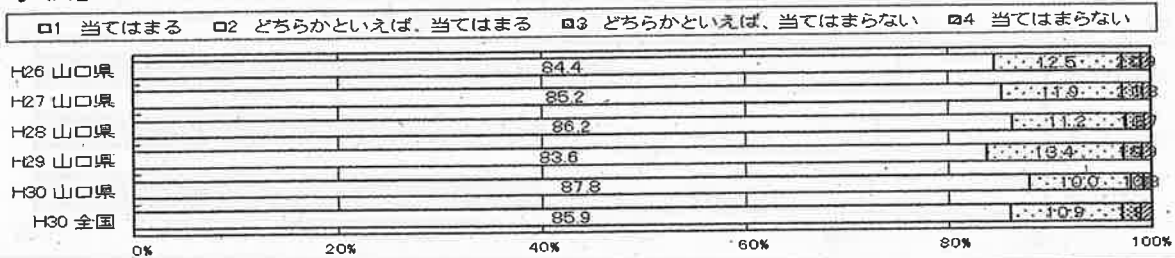
##### 【中学校】 (1)自分には、よいところがあると思う



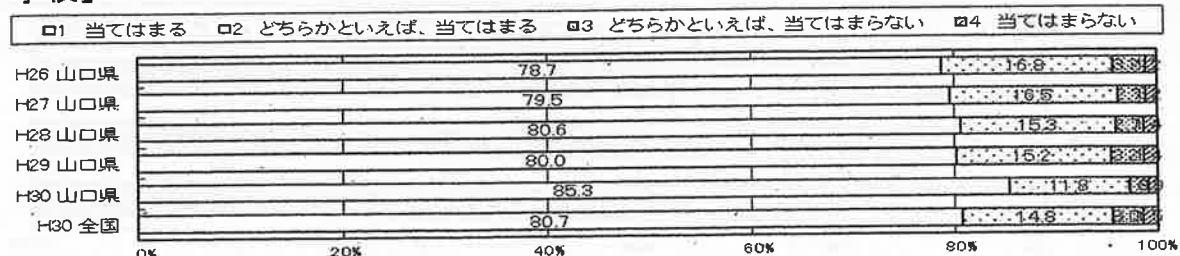
##### イ いじめは絶対にいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 全ての児童生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないという認識をもつことが重要であり、今後も、様々な教育活動の中で人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にする教育を推進することが大切です。

##### 【小学校】 (5)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



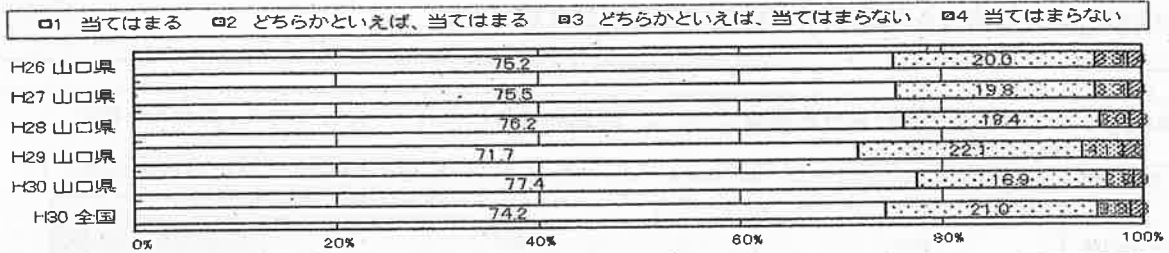
##### 【中学校】 (5)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



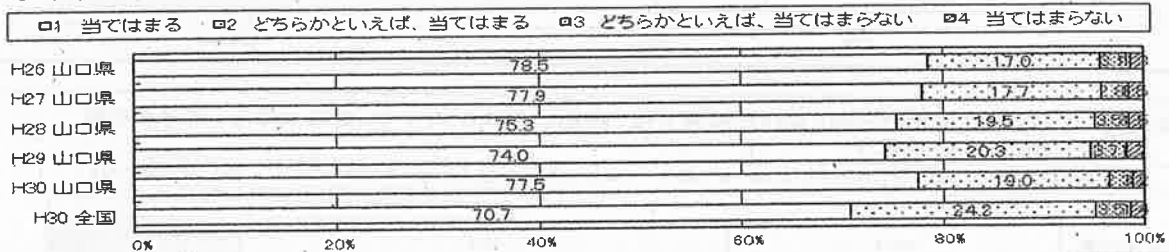
## ウ 人の役に立つ人間になりたい

- 人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後、道徳科の授業改善や様々な体験活動の充実により、児童生徒の自己有用感を高めていくことが大切です。

### 【小学校】 (6) 人の役に立つ人間になりたいと思う



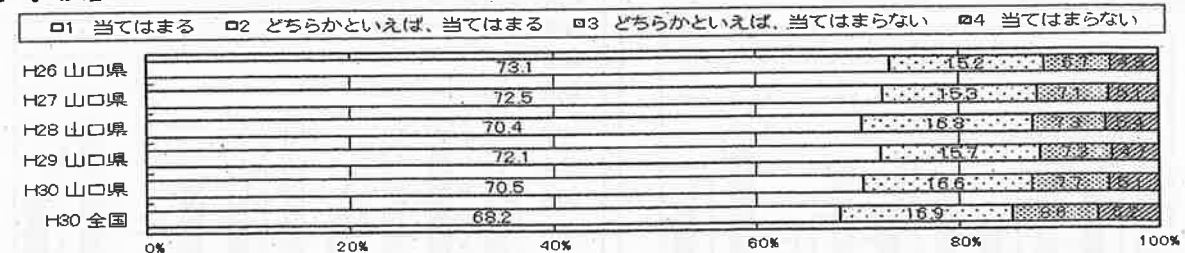
### 【中学校】 (6) 人の役に立つ人間になりたいと思う



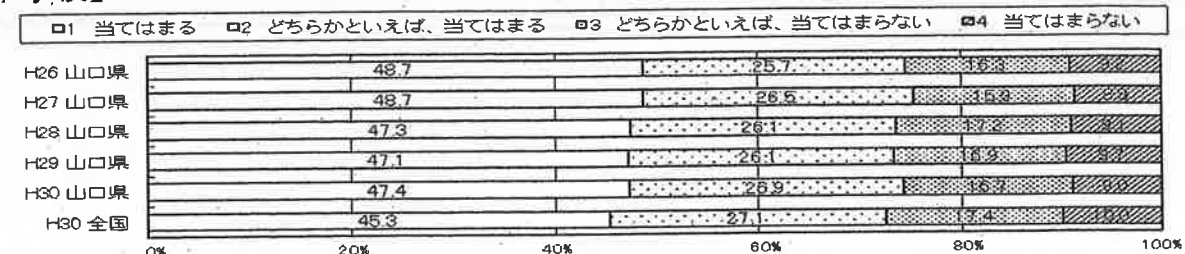
## エ 将来の夢や目標を持っている

- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、小学校において、減少傾向が見られる。
- ☞ 特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図り、学校で学ぶことと社会との接続を意識させることが大切です。

### 【小学校】 (3) 将来の夢や目標を持っている



### 【中学校】 (3) 将来の夢や目標を持っている

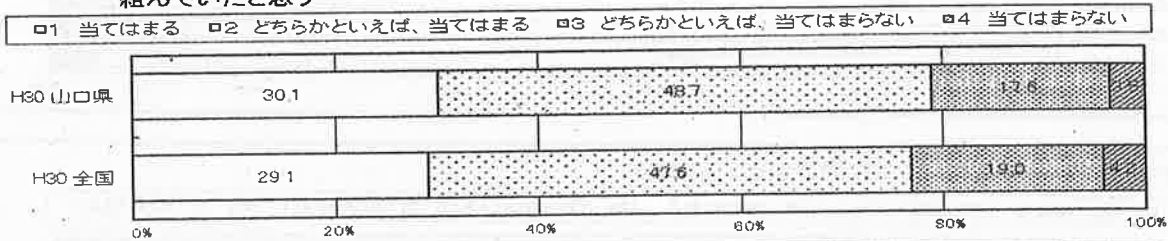


## ⑤ 学校の授業や活動

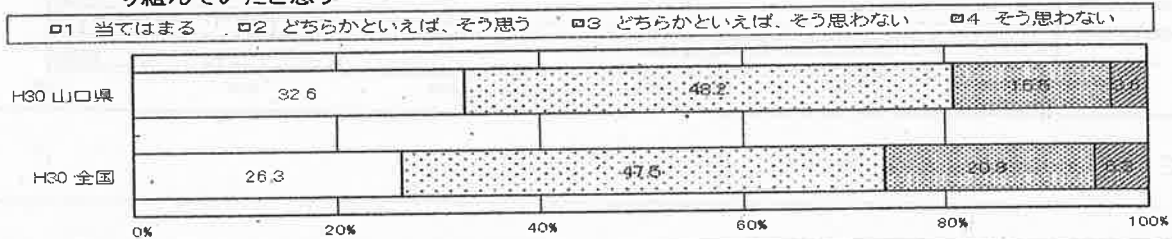
### ア 課題の解決に向けた主体的な取組

- 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が高い傾向が見られます。今後も、児童生徒が学習活動の見直しをもったり、学習した内容を振り返ったりする活動の充実を図るなど、児童生徒の主体的な学びの実現に向けた授業改善を推進することが大切です。

【小学校】 (55) 5年生までに受けた授業について、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

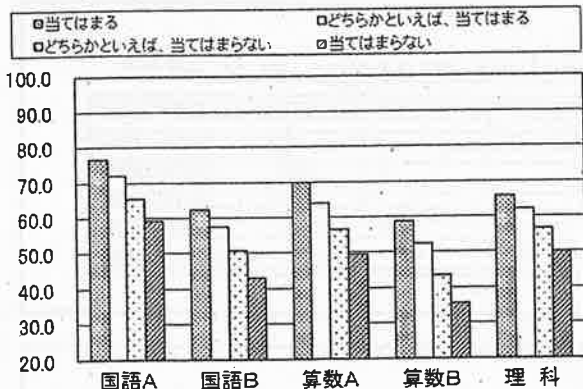


【中学校】 (52) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

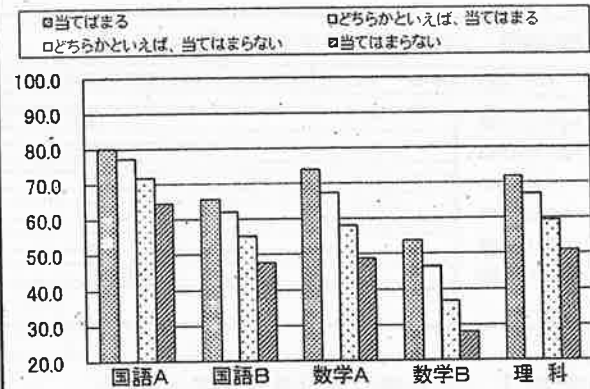


### [教科の正答率との関係]

【小学校】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う



【中学校】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う



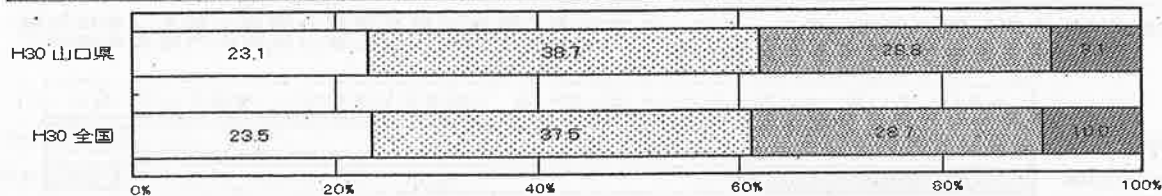


## イ 資料や文章、話の組立てなどを工夫した発表

- 授業等において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、伝える目的や相手を明確にして話し合いの中で自分の考えをしっかりと発表したり、友達の意見に耳を傾けたりする学習活動や、活動を振り返り、改善点を見出す等の学習活動の一層の充実を図ることが大切です。

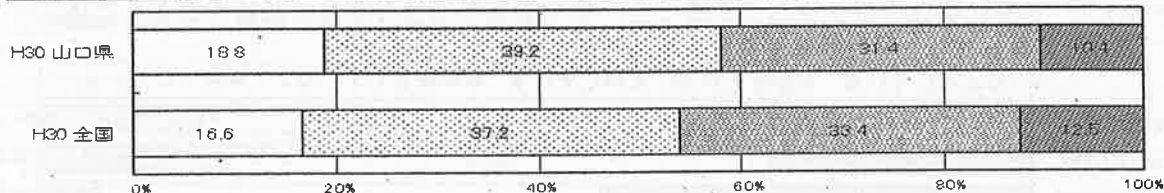
【小学校】 (56) 5年生までに受けた授業について、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (53) 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、そう思う □3 どちらかといえば、そう思わない □4 そう思わない

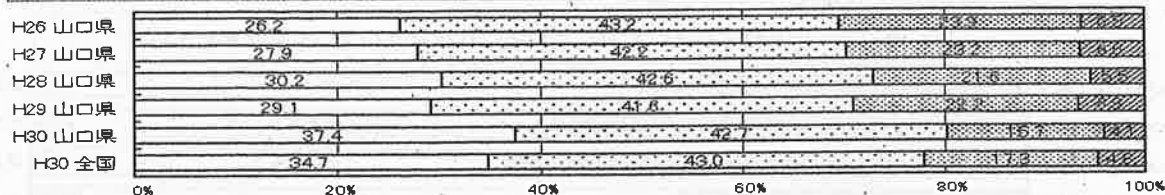


## ウ 話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする

- 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、各教科等の特質に応じた言語活動をどのような場面で、またどのような工夫を行い、取り入れるかを考え、計画的・継続的に改善・充実を図ることが大切です。

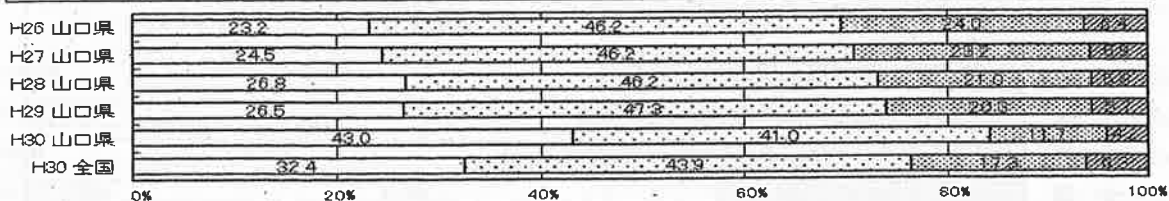
【小学校】 (57) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

□1 そう思う □2 どちらかといえば、そう思う □3 どちらかといえば、そう思わない □4 そう思わない



【中学校】 (54) 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

□1 そう思う □2 どちらかといえば、そう思う □3 どちらかといえば、そう思わない □4 そう思わない



### (3) 学校質問紙

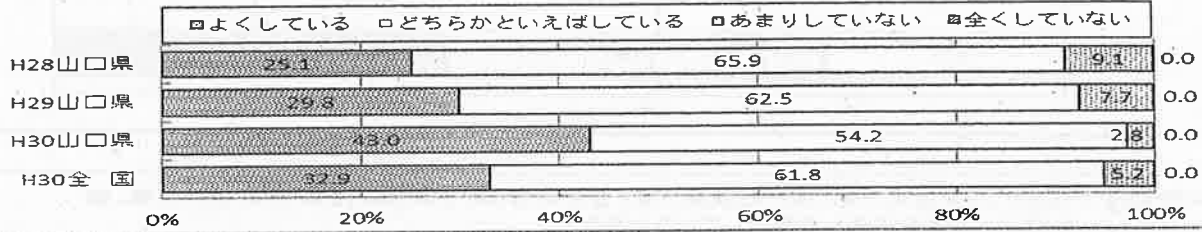
#### ① 教育課程

##### ア 横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列して指導計画を作成

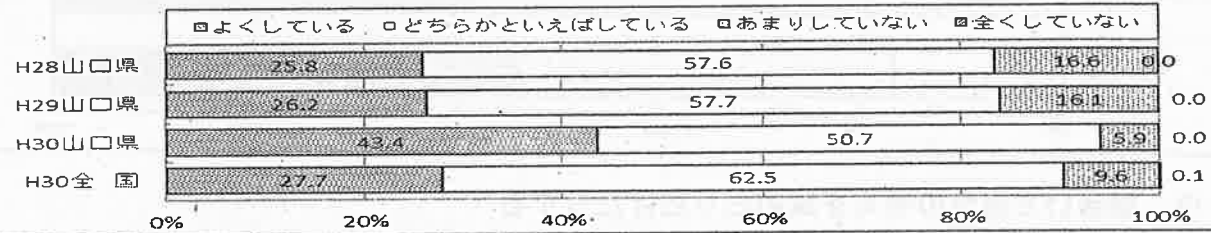
○ 指導計画の作成に当たって、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 全教職員が、カリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、各学校の教育目標の実現に必要な教育内容等を、教科横断的な視点で組み立てていくことが大切です。

【小学校】 16 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している



【中学校】 15 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している

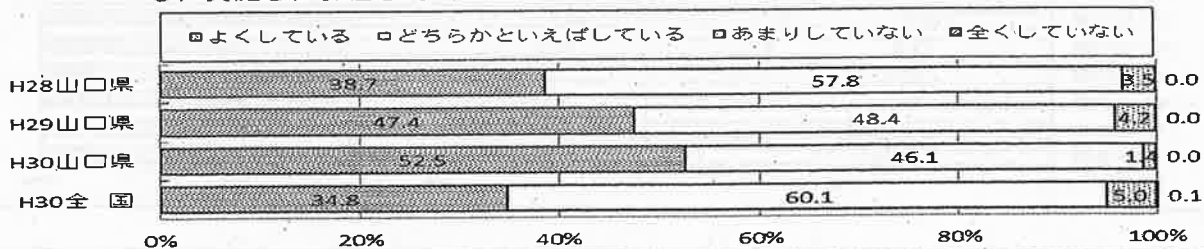


##### イ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

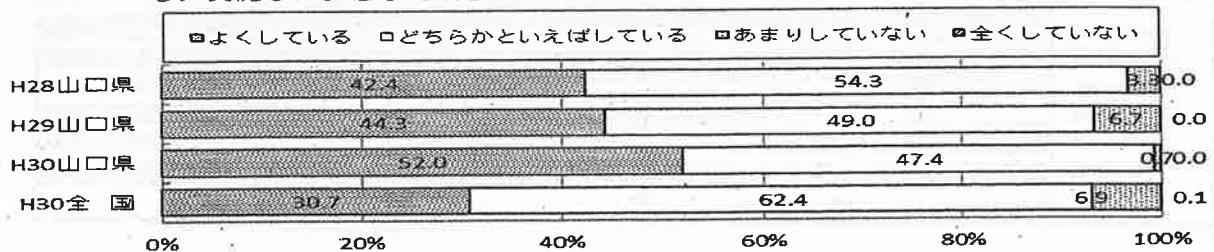
○ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、適切に教育課程を編成、実施するとともに、その成果と改善点を明確にするためのPDCAサイクルを確立することが大切です。

【小学校】 18 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



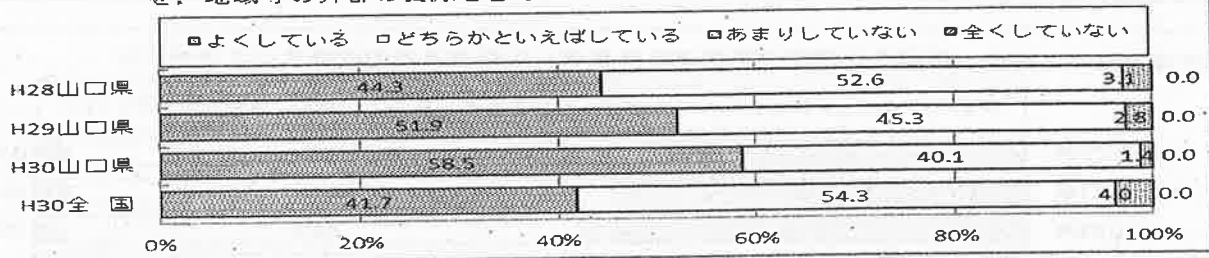
【中学校】 17 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



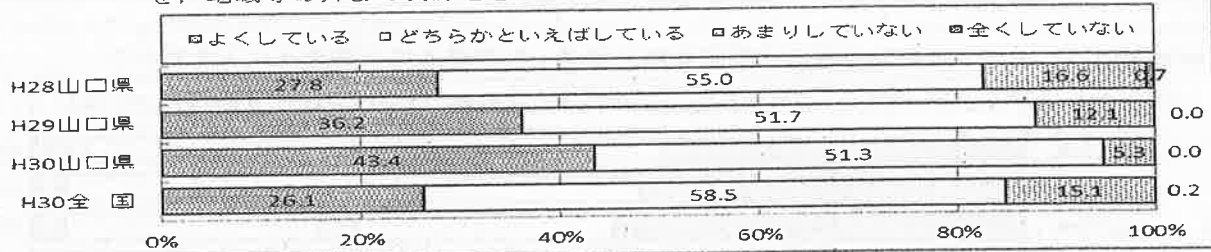
## ウ 地域等の外部の資源を含めた人的・物的資源を活用した指導計画の作成

- 指導計画の作成に当たって、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、教育課程の実施に向けて、地域人材や外部資源と教育活動を結び付けることが大切です。

【小学校】 19 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



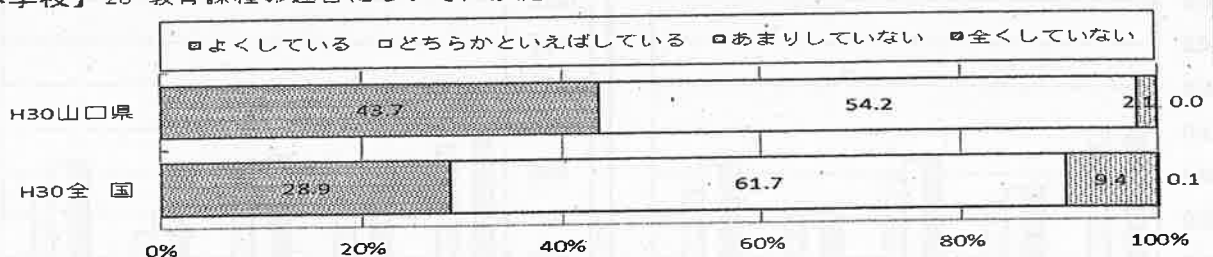
【中学校】 18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



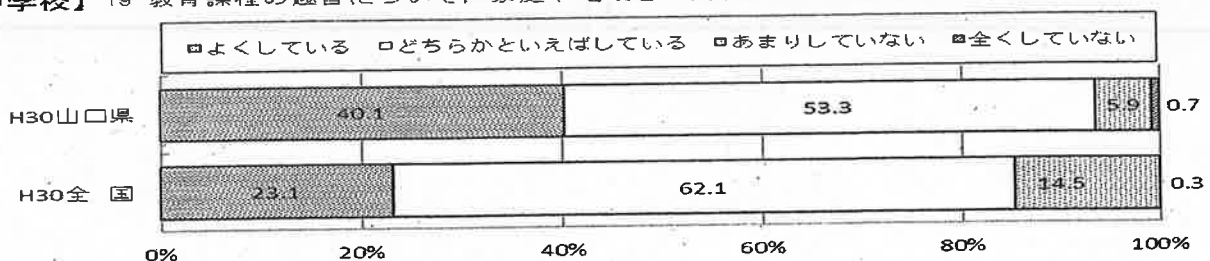
## エ 教育課程の趣旨についての家庭や地域との共有

- 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 教育課程を介して、学校・家庭・地域がつながることにより、地域全体でどのような児童生徒を育てていくか、目標やビジョンを共有することが大切です。

【小学校】 20 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている



【中学校】 19 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている

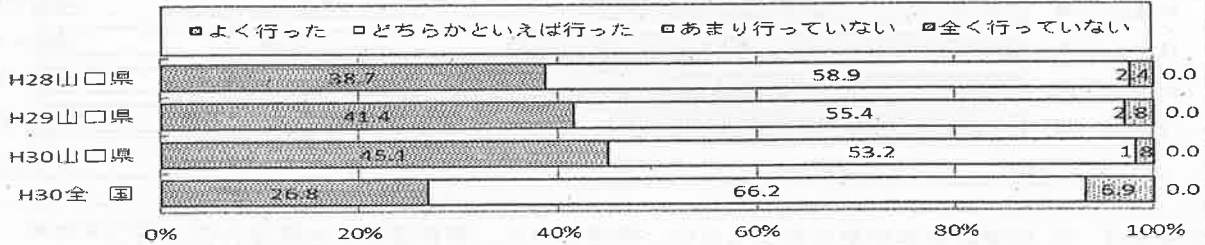


## ② 学習指導

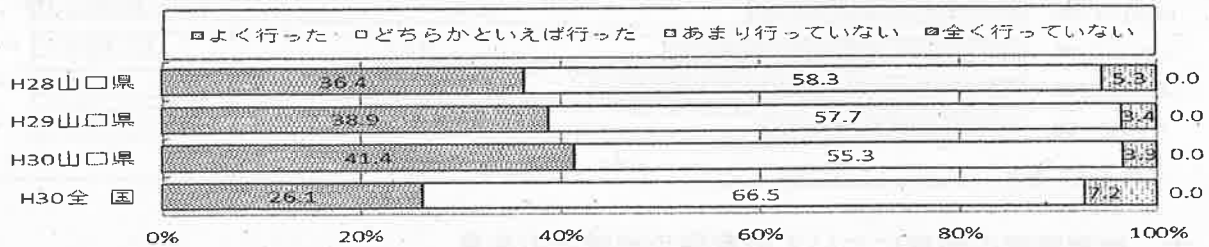
### ア 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫

- 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている学校の割合は、全国と比べて高く、年々増加している。
- ☞ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した学習指導と児童生徒の学力には明らかな相関関係が見られます。児童生徒の確かな学力の定着と向上に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、組織的に推進することが大切です。

【小学校】 22 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

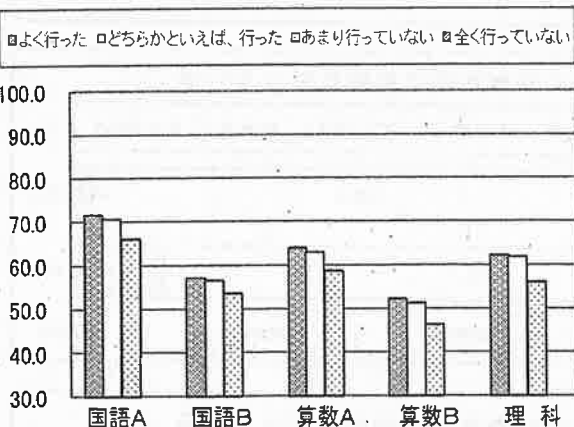


【中学校】 21 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

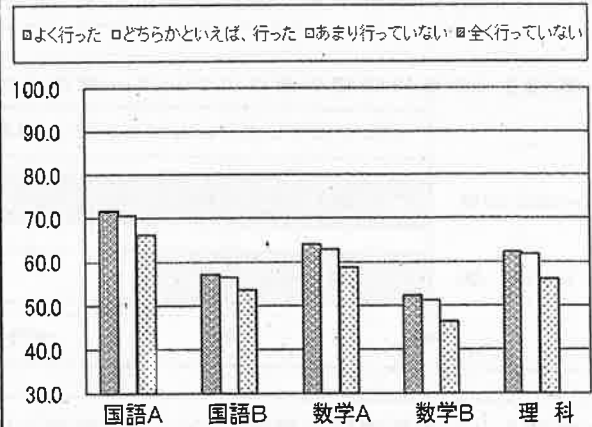


### [教科の正答率との関係]

【小学校】 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした



【中学校】 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

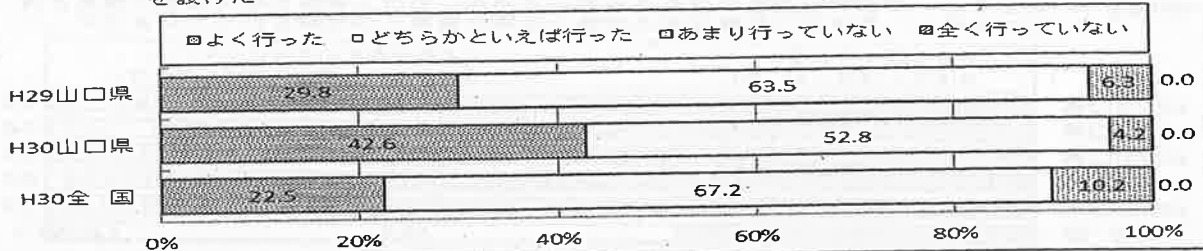




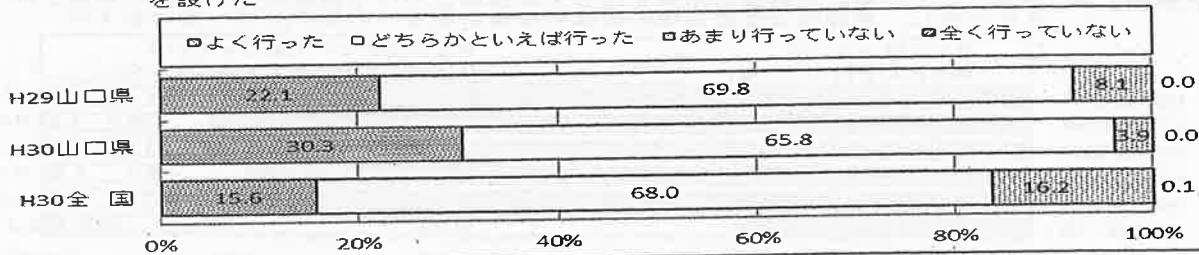
## イ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会の設定

- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 「生きる力」の育成の視点から、各教科で身に付けた力が相互に関連付けられ、学習や生活の様々な課題解決に生かされるよう、教育活動の一層の充実を図ることが大切です。

【小学校】 26 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



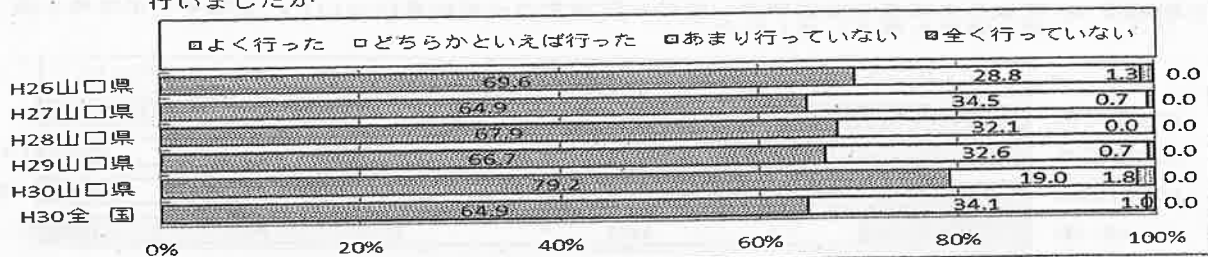
【中学校】 25 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



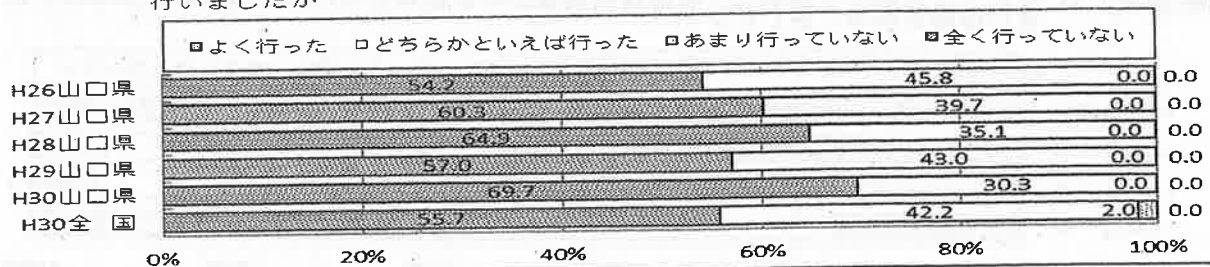
## ウ 積極的な評価の実施

- 学校生活の中で、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価した学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 児童生徒の学習に対する意識や意欲を高められるよう、学習の成果や進歩の状況を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることが大切です。

【小学校】 30 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組をどの程度行いましたか



【中学校】 29 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組をどの程度行いましたか

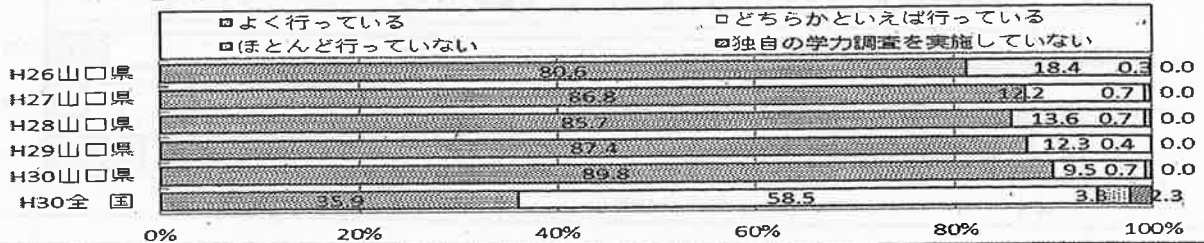


### ③ 調査結果の活用

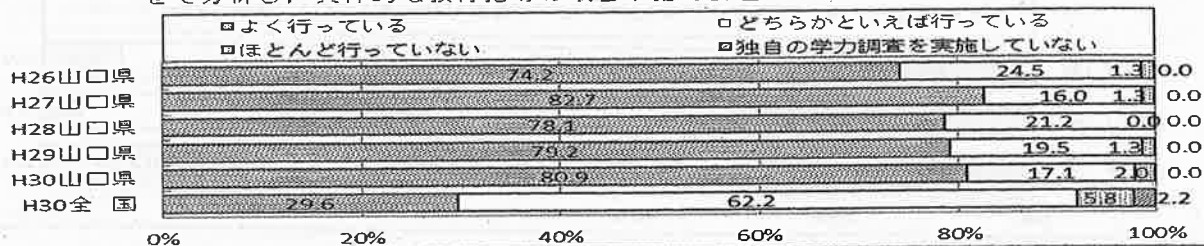
#### ア 全国調査と県調査を併せて分析し、指導の改善や指導計画等に反映

- 全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題の結果を併せて分析し、指導の改善や指導計画への反映を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 誤答分析から、児童生徒の学習状況を適切に捉え、課題の改善に向けた取組を焦点化することにより、日々の授業改善を学校全体で推進することが大切です。

【小学校】 33 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



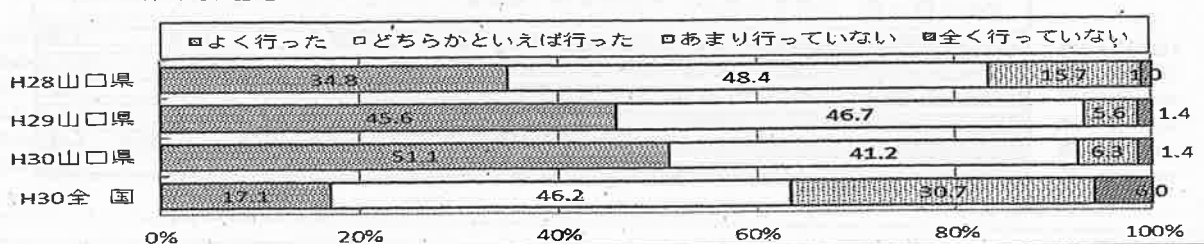
【中学校】 32 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



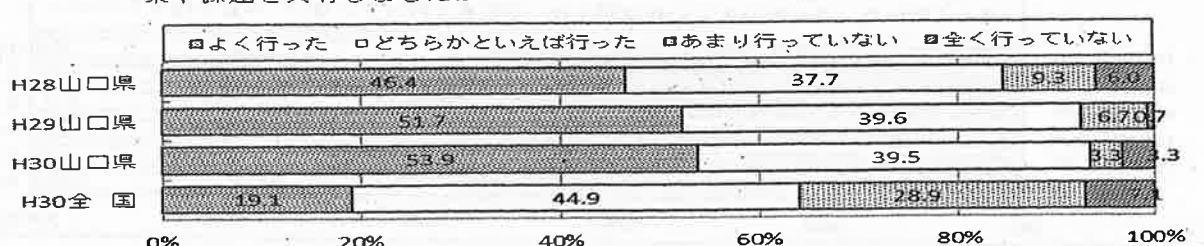
#### イ 全国調査の分析結果を近隣等の中学校（小学校）と共有

- 全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有した学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 全国調査の結果から分かる成果や課題を共有し、小学校及び中学校の9年間を見通した計画的かつ継続的な教育活動を推進することが大切です。

【小学校】 34 平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか



【中学校】 33 平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか

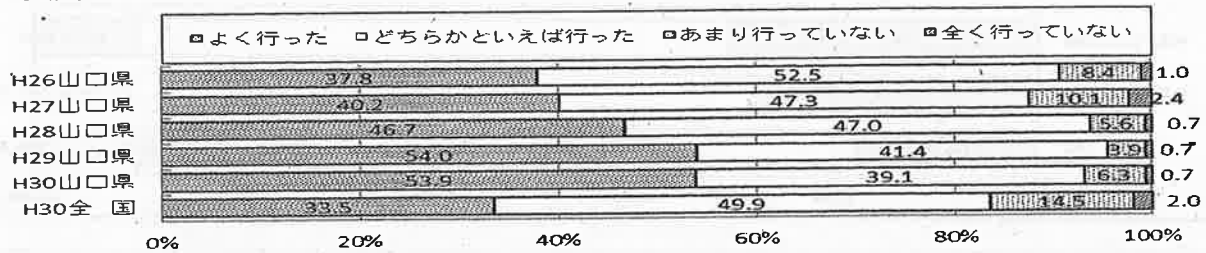


#### ④ 地域との連携

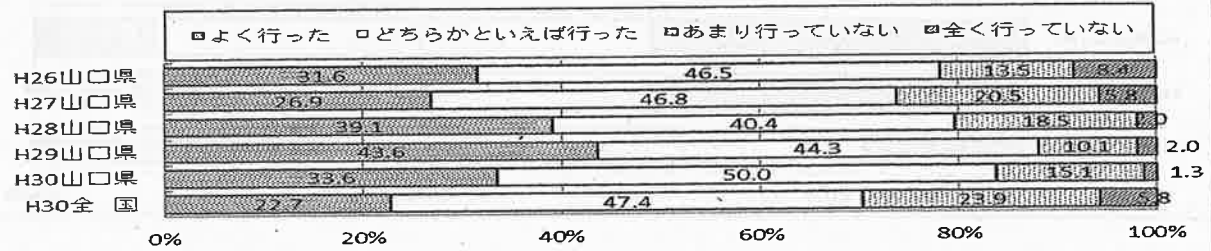
##### ア 地域の人材を外部講師として招聘した授業の実施

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ キャリア教育や道徳教育、様々な教育活動の視点から、地域の人材を外部講師として招聘し、児童生徒の学ぶ機会の充実を図ることが大切です。

【小学校】 53 地域の人材を外部講師として招聘した授業



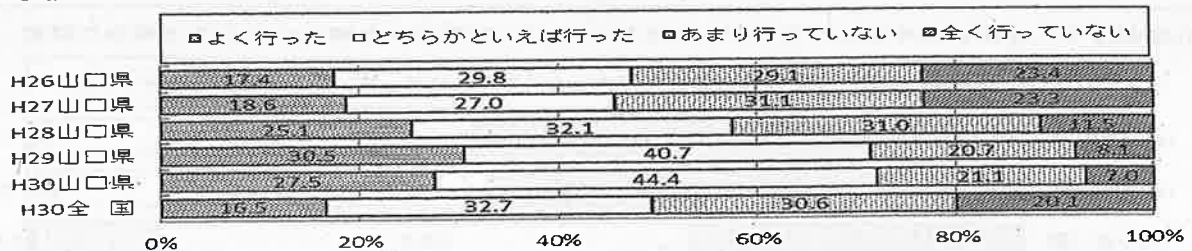
【中学校】 51 地域の人材を外部講師として招聘した授業



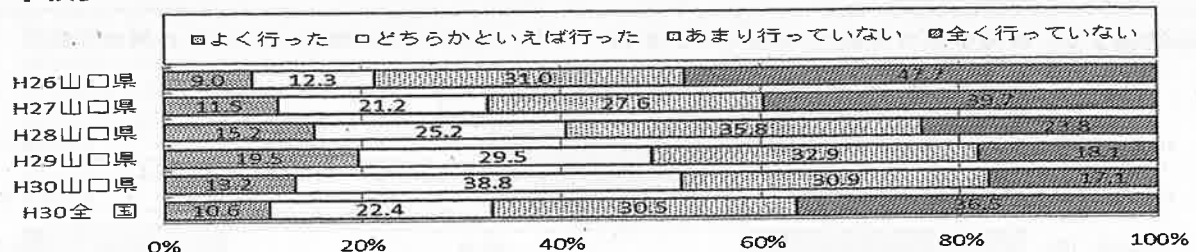
##### イ ボランティア等による授業サポート（補助）の実施

- ボランティア等による授業サポート（補助）を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、児童生徒や学校の実態に応じたきめ細かな学習支援を充実させることが大切です。

【小学校】 54 ボランティア等による授業サポート（補助）



【中学校】 52 ボランティア等による授業サポート（補助）



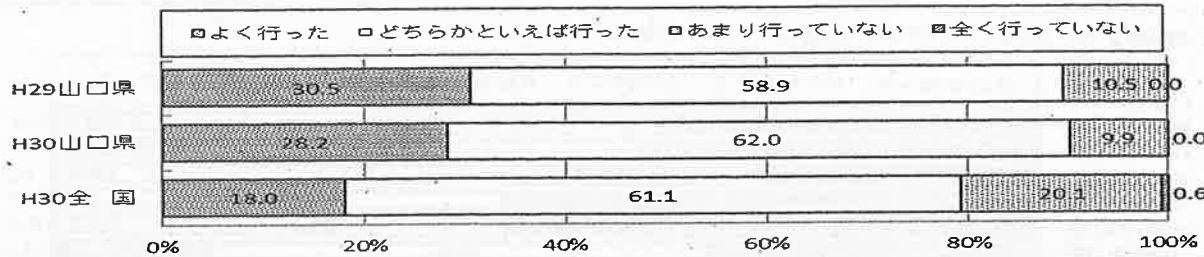


## ウ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導の実施

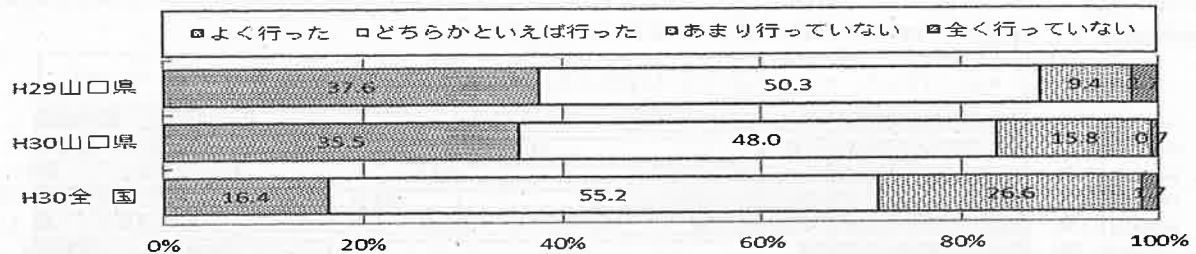
○ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 日々の教育活動において、学習内容と地域や社会とのつながりを意識させることが大切です。

【小学校】56 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導



【中学校】54 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導

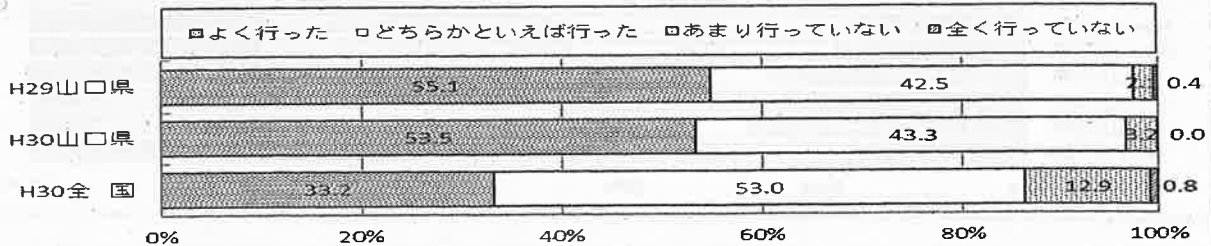


## エ 授業や課外授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定

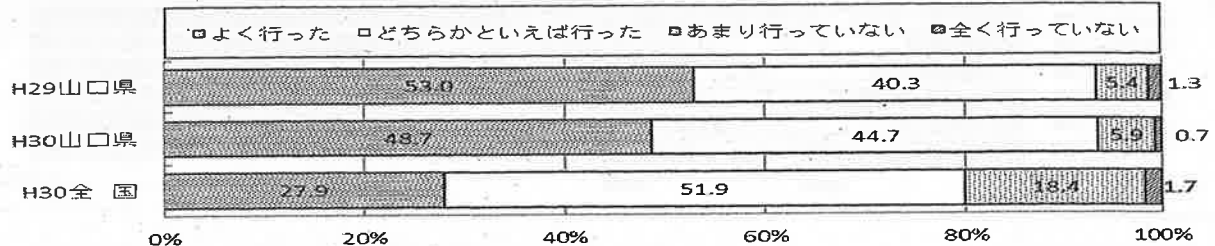
○ 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域の人的・物的体制を構築し、地域の方と関わる場や地域のことを学ぶ機会を充実させることが大切です。

【小学校】57 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定



【中学校】55 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定

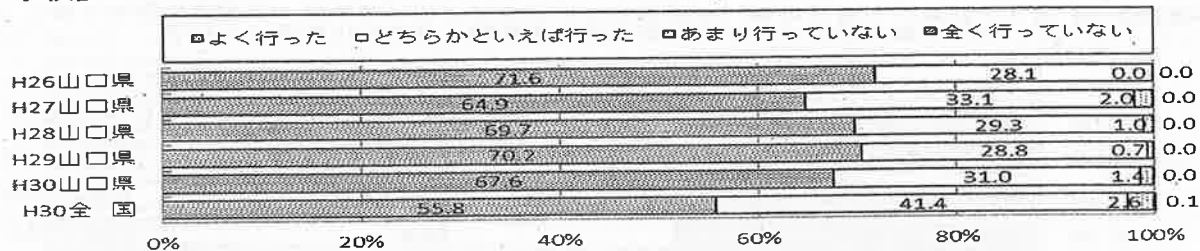


## ⑤ 家庭学習

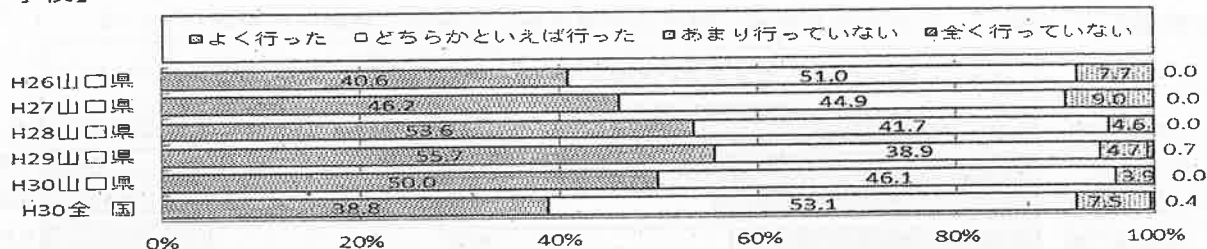
### ア 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促す働きかけ

- 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 学校だよりや家庭学習の手引き等を活用して、児童生徒の家庭での学習習慣が確立するよう、家庭と連携を図ることが大切です。

【小学校】 63 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけ



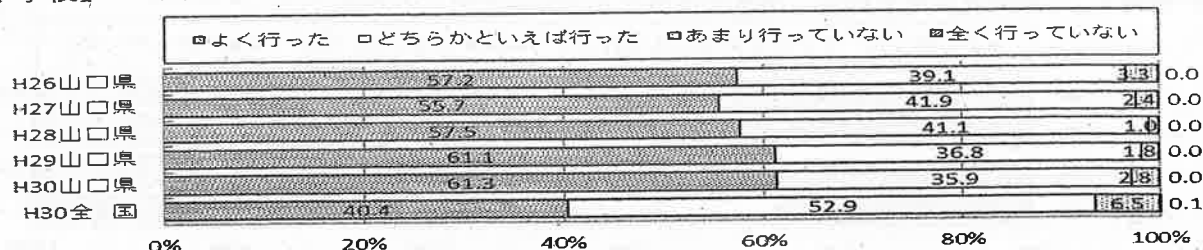
【中学校】 60 保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけ



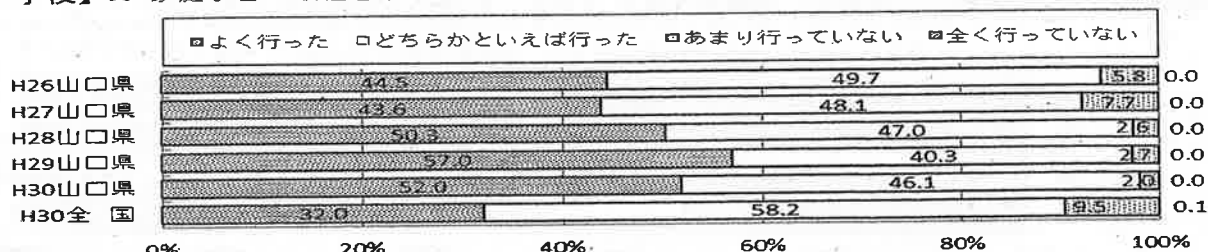
### イ 家庭での学習方法等の具体的な説明

- 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 児童生徒の発達の段階や学習状況に応じて、きめ細かな指導や価値付けを充実させるとともに、継続した支援が行えるよう、家庭との連携をさらに進めることが大切です。

【小学校】 66 家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える



【中学校】 63 家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える

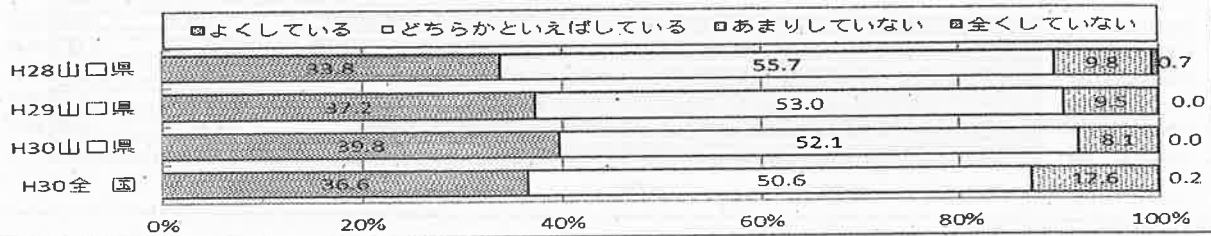


## ⑥ 教員研修・教職員の取組

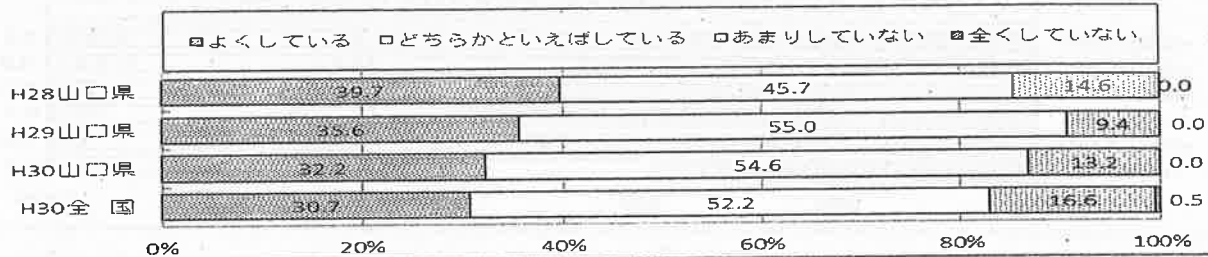
### ア 校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加

- 教員が校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 人材育成の視点から、キャリアステージに応じた資質能力の向上を図る研修や、教育機関等と連携した専門性の向上を図る研修等を積極的に活用することが大切です。

【小学校】76 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している



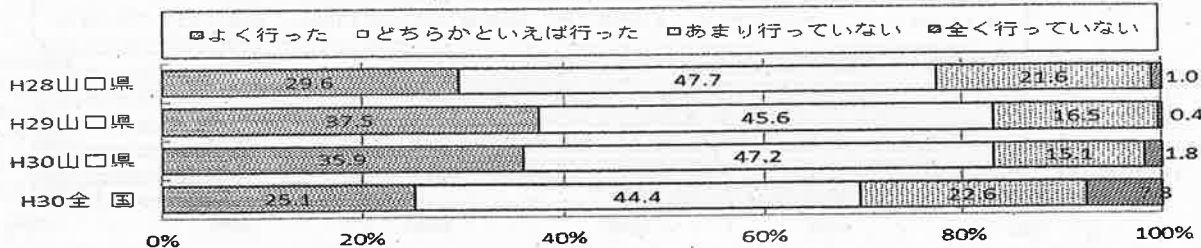
【中学校】73 教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している



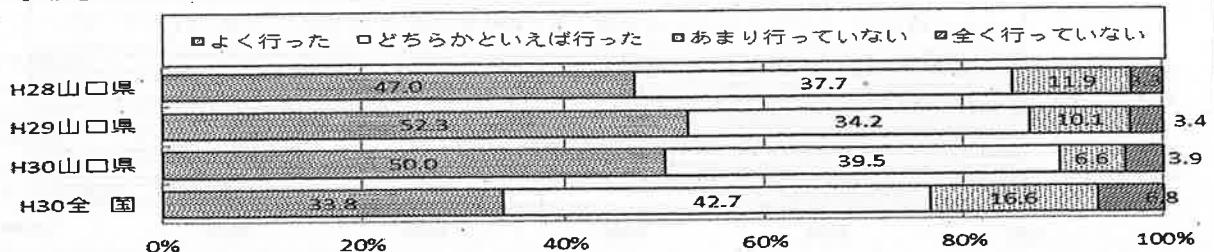
### イ 近隣の小（中）学校との合同研修会の実施

- 近隣等の小（中）学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 育成をめざす児童生徒の姿を明確にして、小学校及び中学校9年間を見通した計画的かつ継続的な教育活動を推進することが大切です。

【小学校】77 近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか



【中学校】74 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか

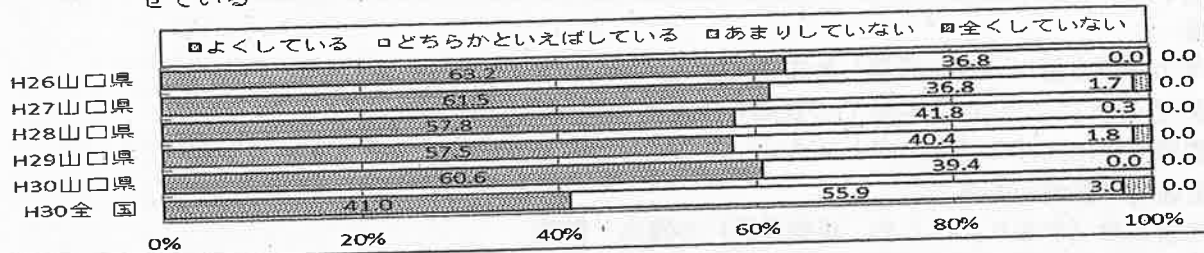




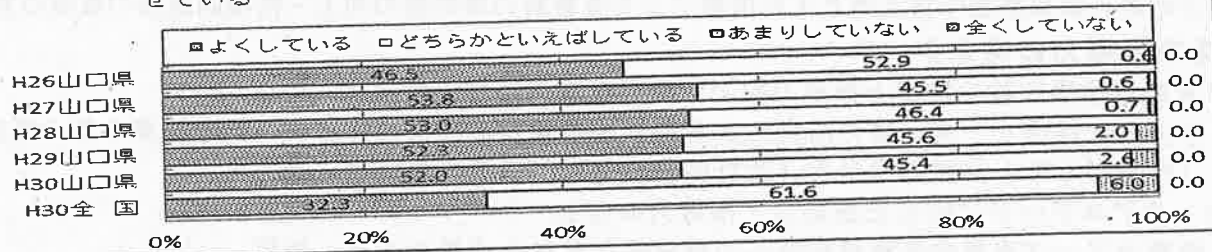
## ウ 校内外の研修や研究会に参加した成果を教育活動に積極的に反映

- 教職員が校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 確実な復伝により、情報を共有し、校内研修の活性化や全校体制での取組につなげていくことが大切です。

【小学校】78 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている



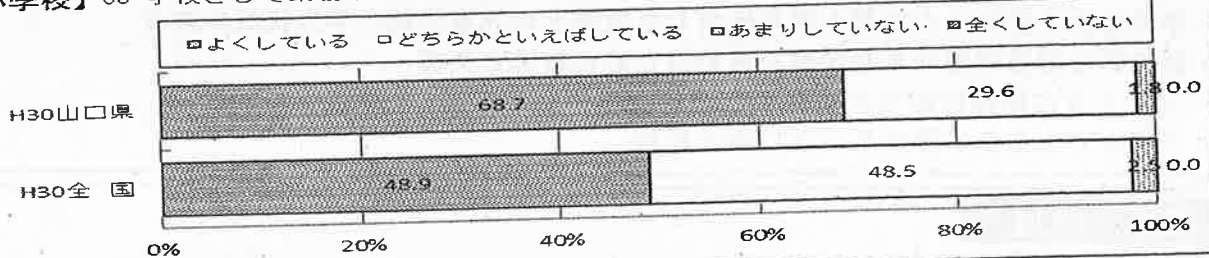
【中学校】75 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている



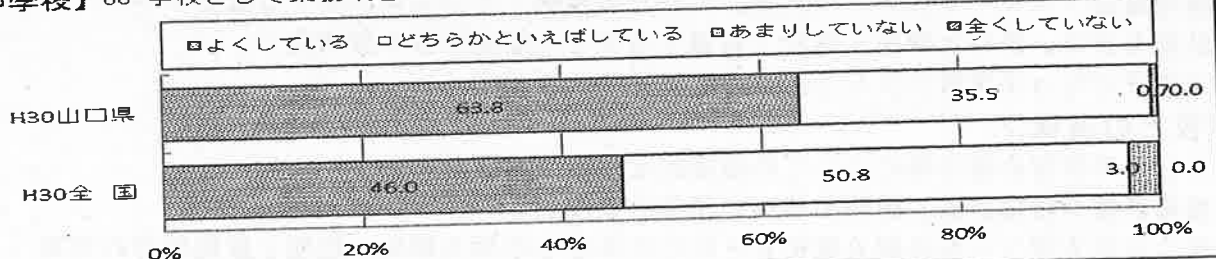
## エ 業務改善への取組

- 業務改善に取り組んでいる学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 引き続き、教育目標の実現に向けたよりよい教育活動をめざし、山口県学校における働き方改革加速化プランに基づいた業務改善を進めることが大切です。

【小学校】83 学校として業務改善に取り組んでいる



【中学校】80 学校として業務改善に取り組んでいる



## 学力向上に向けた今後の取組

各学校の課題解決に向けた取組が具体化され、適切な実施が図られるよう、市町教委との連携を一層強化する。また、今後も「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤として、「学校の組織力の充実」、「教員の授業力の向上」、「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点から、それぞれの取組を推進するとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着と向上に向けて取組む。

### 学 校

#### <学校の組織力の充実>

- 全国学力・学習状況調査、山口県学力定着状況確認問題を活用した年間2回の検証改善サイクルに基づく取組の充実
  - ・学力分析支援ツールを活用した成果と課題の共有
  - ・誤答分析による全校体制での課題の焦点化と取組の具体化
  - ・課題解決に向けた「学力向上プラン」の見直しと取組の日常化
- 学習環境の整備の推進
  - ・学習規律（きまり、けじめ、規範意識）の確立・徹底
  - ・学びを促す学習環境づくり（教室環境や学校図書館の整備、教材教具の整備等）の推進
  - ・地域人材を活用した学習支援体制づくりの構築
  - ・小中の合同研修会や相互乗り入れ指導による各教科の専門性の向上・校種間連携の取組の充実

#### <教員の指導力の向上>

- 日常的な授業改善の推進と授業力向上に向けた校内研修の活性化
  - ・学力向上推進リーダー等の活用による各学校の課題解決に向けた具体的な授業改善の推進
  - ・「授業づくりと評価の手引き【改訂版】」等の指導資料の活用
- キャリアステージに応じた授業力・指導力の向上
  - ・授業力アップ事業や各種研修会への積極的な参加と成果の共有・活用
- 「やまぐち学習支援プログラム」の効果的な活用

#### <学校・家庭・地域の連携力の強化>

- コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した学力向上の取組
  - ・ユニット型研修や授業評価の積極的な実施
  - ・学力向上をテーマとした熟議の実施や学習支援体制の整備
  - ・学校・地域連携カリキュラムの作成
- 家庭や地域との連携・協働に向けた積極的な情報発信
  - ・全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題の結果や取組方策についての情報提供
  - ・学力分析支援ツールの個人票を活用した家庭との児童生徒の学力状況の共有
  - ・計画的な家庭学習や自主学習を進めるための指導と支援
- 一人ひとりの課題に応じた補充学習の実施
  - ・「やまぐちっ子学習プリント」等の活用

### 家庭・地域

#### <生活・学習習慣の確立>

- 規則正しい生活リズムの定着
- 携帯電話・スマートフォンの利用、テレビの視聴、ゲーム等に関する家庭のルールづくり
- 計画を立て、決めた時間・場所で勉強するなどの家庭学習の習慣化
- 「やまぐちっ子学習プリント」等の活用

#### <学校との連携>

- 子どもの学習の様子等についての積極的な相談や情報共有
- 授業参観や授業評価、懇談会等への積極的な参加
- 学力分析支援ツールの個人票をもとにした子どもの学力傾向の把握と家庭学習の充実
- コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した学習支援ボランティアなどへの積極的な参加



## 市町教委

### <学校の組織力の充実>

- 年間2回の検証改善サイクルを活用した取組の充実支援
  - ・学力分析支援ツールの活用による学校ごとのきめ細かな分析と課題解決に向けた具体的な取組支援
- 各研究指定校の取組支援
- 県教委との合同研修会等での本県の学力課題の共有と、改善に向けた施策や各学校の課題解決に向けた具体的な支援方法等の共通理解
- 指導主事の学校担当制による継続的・効果的な学校訪問による各学校に応じた組織的な取組の支援
- 課題解決に向けた「学力向上プラン」の改善、各学校の課題に応じた研修の実施等への支援の充実
- 教育課程の円滑な接続や各教科等の専門性の向上に向けた校種間連携の具体的な取組支援
- 調査結果をもとにした学びを促す学習環境づくりの推進
- 各学校の課題解決に向けた加配教員等の取組の進行管理

### <教員の指導力の向上>

- 校内研修での指導助言などによる、各学校の学力課題の解決に応じた指導方法・内容の改善及び教員の授業力向上の支援
- 学力向上推進リーダー等の効果的な活用（各学校の課題解決に向けた授業改善の指導の充実）
- 先進校の取組や優れた授業実践事例等の情報収集・提供

### <学校・家庭・地域の連携力の強化>

- 生活リズムの定着や家庭学習の習慣化等に向けた保護者への啓発
- コミュニティ・スクール等における学力に関する情報提供や取組の協議、地域人材による学習支援等の各学校の取組支援

## 県教委

### <学校の組織力の充実>

- 年間2回の検証改善サイクルを活用した取組の充実推進
  - ・山口県学力定着状況確認問題の実施
  - ・学力分析支援ツールの活用によるきめ細かな分析と課題解決に向けた取組支援
  - ・調査結果から把握した成果や課題、今後の取組等についての情報提供
- 国・県研究指定校の取組支援と成果の普及
- 市町教委との合同研修会による施策や学校の取組等の共通理解と情報交換
- 学校の課題に応じ、市町教委と連携した重点的・継続的な学校訪問と取組支援
- 「学力向上だより」等による調査結果の分析や学力向上に向けた取組等の情報提供
- 全小・中学校の35人学級化の継続及び学校の実情に応じた課題解決型の少人数指導の一層の充実
- 調査結果をもとにした学びを促す学習環境づくりの推進
- 教育課程の円滑な接続や各教科等の専門性の向上に向けた校種間連携に係る学校・市町教委の取組の支援

### <教員の指導力の向上>

- 各種研修会の充実による、キャリアステージや教科の専門性等に応じた教員の指導力向上支援
- 「授業づくりと評価の手引き【改訂版】」等の指導資料を活用した日常的な授業改善の取組推進
- 市町教委指導主事や学力向上推進リーダー等との情報共有と、各学校の課題解決に向けた支援

### <学校・家庭・地域の連携力の強化>

- コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した組織的な学力向上体制の整備促進と効果的な事例の積極的な普及
- 「やまぐち学習支援プログラム」の活用促進
- 新学習指導要領の趣旨に沿った「やまぐちっ子学習プリント」への改訂・整備と活用促進
- 学力分析支援ツール個人票の提供による学校と家庭との情報共有の支援
- 生活リズムの定着や家庭学習の習慣化等のため、広報誌やWebページによる保護者への啓発
- 「やまぐち型地域連携教育」の仕組み等を活用した地域ぐるみでの学力向上の取組の促進

